

市町村名	南風原町						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①	青少年国際交流事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章－5－(3)－ア		
担当部課名	教育部 生涯学習文化課	事業実施 (予定)年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	国際感覚を身につける教育の 推進		
事業内容	海外移民者との交流や海外での生活体験を通して、国際的な広い視野を持つ人材を育成するため、青少年を海外へ派遣し、教育・文化・歴史・産業などの視察学習、ホームステイ及び現地の学校への体験入学を実施する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()						
予算額・ 執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	—	—	—	8,403	6,977
		(b)予算現額	—	—	—	6,514	9,718
		(c)増減額(b-a)	—	—	—	-1,889	2,741
		(d)繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計(b+d)	—	—	—	6,514	9,718
	B. 執行済額		事業中止	事業中止	事業中止	6,514	9,262
	うち交付金充当額					5,211	7,409
	次年度繰越額					0	0
	執行率(%) (B/A)		—	—	—	100.0%	95.3%
予算の状況の説明		令和6年度はカナダへ中学生10人を派遣した。円安や世界的物価高騰等により、事業に係る航空運賃や現地交通費等が積算より多く見込まれ、補助金の不足が生じたため、補正により予算を増額した。増額後は概ね予算執行できており適正な予算執行ができたと考える。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R5年度	R6年度			
	交流事業派遣生徒数:10人	目 標	(10人)	(10人)	(—)	(—)	
		実 績	10人	10名	—	—	
	事前研修の開催:14回	目 標	(—)	(14回)	()	()	
		実 績	—	12回			
	事後研修の開催:10回	目 標	(—)	(10回)	()	()	
		実 績	—	7回			
	研修後報告会の開催	目 標	(開催)	(開催)	()	()	
		実 績	2回	1回			
達成状況説明	本研修は10日間の日程でカナダ国レスブリッジ市等に10人の中学生を派遣し、3日間の現地視察と4日間のホームステイ体験、3日間の現地ミドルスクールへの体験入学を行い、町人会及び県人会との交流会も実施できた。 事前研修12回、事後研修7回ならびに研修後報告会を1回開催し、回数については一部活動目標は達成できなかったものの研修内容を工夫し、研修で学んだことを多くの生徒や保護者、学校関係者等へ発表することができた。また、研修報告書を作成し各関係機関へ配布することで、本事業の取組内容や派遣生徒の研修成果を広く周知することができた。						

成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値 (年度)	R5年度	R6年度		目標値 (年度)
	帰国後、生徒の国際的な視野がより広まったか(80%以上)を含め、保護者へのアンケートにより本事業のあり方を検証する。	目 標	()	(80%)	(80%)	()	()
		実 績		100%	100%		
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進 捗 状 況 説 明	国際交流に参加した生徒及び保護者へアンケートを実施し、外国語をこれまで以上に学んでいきたい、海外文化への関心もこれまで以上に持つようになったと回答した割合が100%となり、目標している80%を達成することができた。 外国語習得、海外留学を目指す等、国際交流事業を通して海外文化との違いに直接触れる事で外国語への関心が高まっただけでなく、さらに海外文化や自国への関心も高くなっていることがわかった。国際交流事業を通して、コミュニケーション力や積極性等、自身の成長を感じている生徒も多くいた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	アンケートでは全員が外国語や海外文化への興味をこれまで以上に持ったと回答があったため、国際的な広い視野を持つ人材の育成に寄与できたと考え、今後も引き続き国際理解教育を推進できるように移民の方たちとのネットワークを生かして事業を進めていきたい。	町人会や県人会と今後も継続的に交流を深め、情報交換や情報共有を密にして、生徒が海外文化に興味を持つような学習プログラム等を引き続き提供・実施する。また、県系移民やホストファミリー等との協力関係を継続し、帰国後も国際的な視野を持つ人材として地域リーダーとなるよう人材の育成に努める。
今後の取り組み方針		
今後も生徒が海外文化へ興味を持ち、関係機関と調整しながら研修プログラムを検討する。また、国際交流事業を通して人材育成を図る観点から、研修後報告会や研修報告書を作成して終了ではなく、今後もこの事業の経験を住民や後輩達に還元できるよう地域活動やボランティア活動等、国際交流OBとしての継続した活動が展開できるようにする。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>9,860</td><td>9,262</td><td>7,409</td><td>1,853</td><td>598</td></tr> </table> 南風原町 9,262千円 → 補助金 9,262千円 → 南風原町育英会 9,262千円 〔 青少年国際交流事業に係る経費の補助(旅費等) 〕 〔 ほか、交付対象外経費(食糧費・交際費等) 598千円 〕					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	9,860	9,262	7,409	1,853	598
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
9,860	9,262	7,409	1,853	598										
資金の 使途の 流れ・ 費目・ 評価	評価	点 検 項 目		評価に関する説明										
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○町補助金交付要綱等に基づき南風原町育英会に対して支出している。										
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○予算規模は、事業に必要な旅費、現地で必要な経費、謝礼金等であり適正な規模である。										
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。		○受益者の負担については、南風原町青少年国際交流実施要項に基づき実施しており、妥当であったと考えている。就学援助世帯の参加費を免除する事で、経済的理由により参加を断念する中学生にも事業参加の機会ができると期待される。										
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○事業達成に必要な分の金額のみを支出し、妥当な額で実施している。										

市町村名	南風原町						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-②	小学校英語指導助手配置事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章－5－(3)－ア	
担当部課名	教育部 学校教育課	事業実施 (予定)年度	平成24～令和13年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	国際感覚を身に付ける教育の 推進 Ⅲ－3－(1)	
事業内容	小学生のうちから英会話に触れさせ、英会話や英語圏の文化について興味を持たせ英語力を向上させるため、小学校に英語指導助手を配置する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・ 執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	14,277	15,848	16,675	17,321	20,843
		(b)予算現額	14,058	15,497	16,257	16,254	18,434
		(c)増減額(b-a)	-219	-351	-418	-1,067	-2,409
		(d)繰越額					
		A. 計(b+d)	14,058	15,497	16,257	16,254	18,434
		B. 執行済額	13825	14931	15517	16,254	17,828
		うち交付金充当額	11060	11945	12413	13,003	14,262
		次年度繰越額					
		執行率(%) (B/A)	98.3%	96.3%	95.4%	100.0%	96.7%
	予算の状況の説明	4月から計画通り6人配置できたが、年度途中での退職及び交付対象事業費を整理したうえで減額が生じた。欠員については令和7年1月に退職者があり、募集をかけたが採用できなかったため執行率が96.7%となった。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	小学校英語指導助手配置数:6人 ・4人 4校各1人 ・2人 中学校区各1人	目 標	(6人)	(6人)	(6人)	(6人)	
		実 績	6人	6人	6人	6人	
達成 状況 説明	小学校英語指導助手について欠員期間があったものの町内小学校4校全てに配置予定人数6人を配置することができた。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (年度)
	外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思う児童の割合:80%以上	目 標	()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()
		実 績		88.50%	86.50%	81.05%	
	【参考指標】	目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗 状況 説明	・アンケート調査を行った結果、外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思う児童の割合は81.05%であり、目標(指標)を1.05%上回った。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・アンケート調査を行った結果、「外国の人と友達になりたい、もっと知ったりしてみたいと思いますか。」という質問に対し、80%以上は外国に関心を持ったため成果目標を達成したが、6.3%の児童が「そう思わない」と回答した。主な要因としては「授業が難しかった」という意見が多くみられた。	・外国語に対して「難しい」というイメージを軽減できるように、楽しく授業に参加できる取組が必要となる。
今後の取り組み方針		
・小学校のうちから外国語に対する苦手意識を克服できるよう楽しい授業づくりをし、担任、英語専科、英語指導助手と連携を図り、環境を整えていくことで、小学校から中学校へ英語に対する学びの接続がより一層図られ学習向上へと繋げていく。 ・連携強化のため研修等も行いながら、より質の高い授業が展開できるように取り組んでいく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>18,388</td><td>17,828</td><td>14,262</td><td>3,566</td><td>560</td></tr> </tbody> </table> 南風原町 17,828千円 報酬・期末手当 勤勉手当・通勤手当 15,860千円 小学校英語指導助手(6人) 15,860千円 報酬・職員手当等 報酬・期末手当 勤勉手当・通勤手当 15,860千円 小学校英語指導助手(6人) 15,860千円 報酬・職員手当等 共済費 1,968千円 日本年金機構・公立学校共済組合 1,986千円 共済費 ほか、交付対象外経費 560千円					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	18,388	17,828	14,262	3,566	560
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
18,388	17,828	14,262	3,566	560										
資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○英語指導助手の選定は採用前に面接を行い、資格や発音が正確な助手を採用しており選定方法は妥当である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○学校の授業規模にあった配置を行っており、予算規模は適正である。											
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目使途が事業目的に即しているかについては南風原町の「南風原町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例」に決められた給料や手当等を支払っており適正であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	南風原町						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-③	学力調査等事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-ア	
担当部課名	教育部 学校教育課	事業実施 (予定)年度	平成24～令和13年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	確かな学力を身に付ける学校教育の充実 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	個々の学力を把握することで一人ひとりの課題を明確にし、児童生徒のさらなる学力向上に繋げるため、学力調査等を実施する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 ■補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	4,895	4,705	4,306	5,828	13,433
		(b)予算現額	3,994	4,127	4,338	10,093	12,937
		(c)増減額(b-a)	-901	-578	32	4,265	-496
		(d)繰越額					
		A. 計(b+d)	3,994	4,127	4,338	10,093	12,937
	B. 執行済額		3,977	4,093	4,230	9,894	12,792
	うち交付金充当額		3,181	3,275	3,383	7,914	10,233
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		99.6%	99.2%	97.5%	98.0%	98.9%
予算の状況の説明		町内すべての小中学校(小学校4校、中学校2校)において学力調査等を実施し、適正な予算執行を行った。 令和6年度事業費が増となっている理由は令和5年度と同様の事業に加え、先進地視察研修を行ったためである。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	標準学力調査の実施 ・小学校4校 2年～3年:国語・算数		目 標	(小学校4校)	(小学校4校)	(小学校4校)	(小学校4校)
			実 績	小学校4校中4校	小学校4校中4校	小学校4校中4校	小学校4校中4校
	学力調査の実施 ・中学校2校 3年:国語・数学・理科・社会・英語		目 標	(中学校2校)	(中学校2校)	(中学校2校)	(中学校2校)
			実 績	中学校2校中2校	中学校2校中2校	中学校2校中2校	中学校2校中2校
	リーディングスキルテストの実施 ・小学校4校 5年～6年 ・中学校2校 1年～2年 ・教員		目 標	(小学校4校 中学校2校)	(小学校4校 中学校2校)	(小学校4校 中学校2校)	(小学校4校 中学校2校)
			実 績	小学校4校中4校 中学校2校中2校	小学校4校中4校 中学校2校中2校	小学校4校中4校 中学校2校中2校	小学校4校中4校 中学校2校中2校
	外部講師による研修会等の実施		目 標	()	(実施)	(実施)	(実施)
			実 績		実施	実施	実施
	達成度確認テストの実施 ・中学校2校 1～3年		目 標	()	()	(中学校2校)	(中学校2校)
			実 績			中学校2校中2校	中学校2校中2校
	先進地視察研修		目 標	()	()	()	(実施)
実 績						実施	
達成 状 況 説 明	標準学力調査、学力調査、リーディングスキルテスト、達成度確認テストについて、対象の小中学校で計画どおり実施することができた。また、外部講師による研修会及び先進地視察研修の実施も計画通り実施できた。						

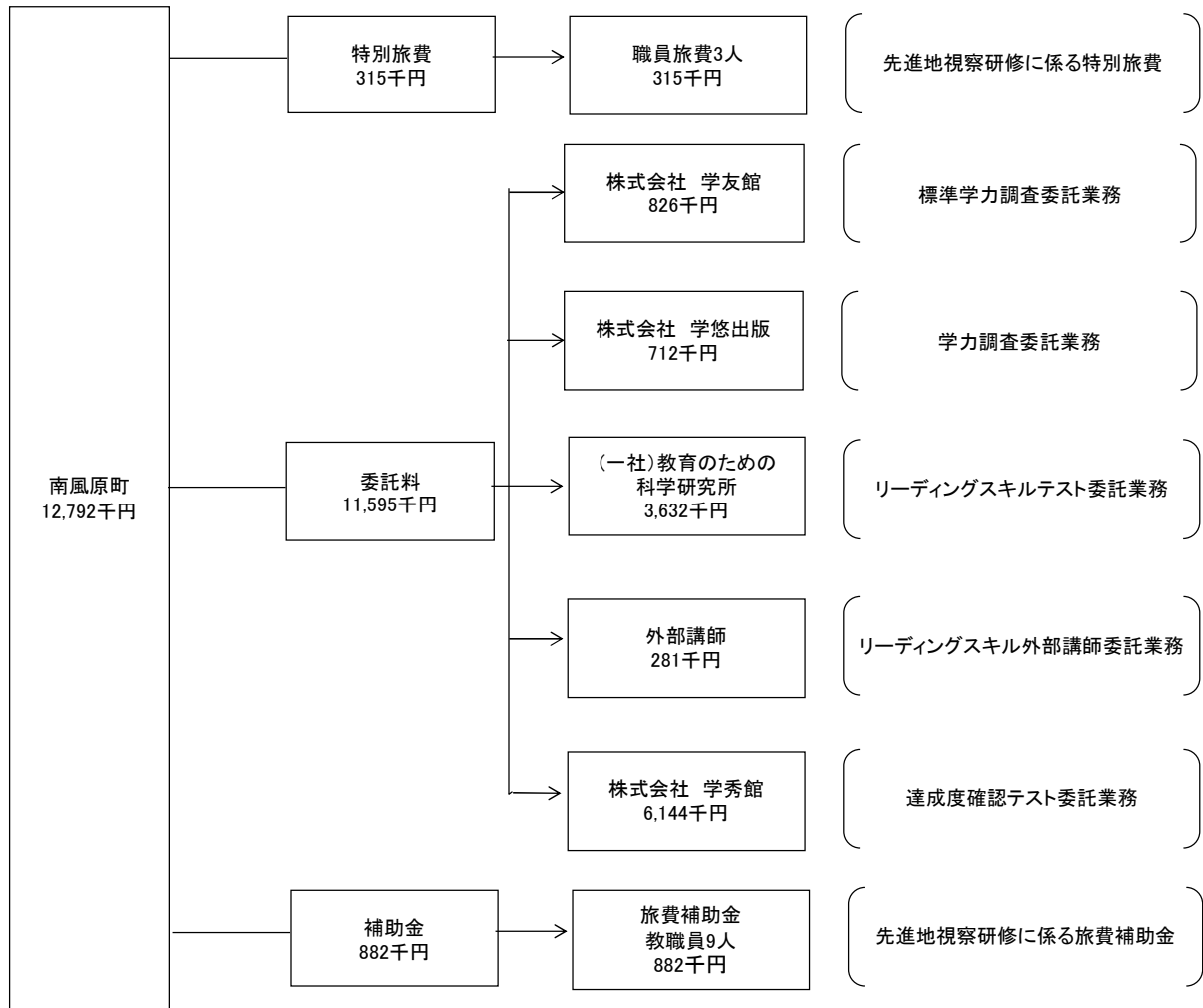
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (年度)
	標準学力調査の平均回答率が目標値以上の科目数 小学2年:2科目/2科目 小学3年:2科目/2科目	目 標	()	(小学1年～2年 2科目(全科目))	(小学2年～3年 2科目(全科目))	(小学2年～3年 2科目(全科目))	()
		実 績		小学校:2年(1科目) 3年(0科目)	小学校:2年(1科目) 3年(0科目)	小学校:2年(1科目) 3年(1科目)	
	沖縄県学力到達度調査において、県と本町との平均正答率の差の合計 小学校:算数-1.0ポイント以上	目 標	()	(算数-1.0ポイント以上)	(算数-1.0ポイント以上)	(算数-1.0ポイント以上)	()
		実 績		小6 算数+1.1	小5 算数 -1.4 小6 算数 -1.5	小5 算数 -1.1 小6 算数 +0.2	
	沖縄県学力到達度調査において、県と本町との平均正答率の差の合計 中学校:数学+1.0ポイント以上	目 標	()	(数学+5.1ポイント以上)	(数学+1.0ポイント以上)	(数学+1.0ポイント以上)	()
		実 績		中1 数学-0.5 中2 数学+0.3	中1 数学-1.1 中2 数学+0.4	中1 数学-0.2 中2 数学+0.9	
	進捗状況説明	・標準学力調査の平均正答率については、小学2年の算数、小学3年の国語が目標値以上であった。 ・沖縄県学力到達度調査における県と本町との平均正答率の差について、小学6年は目標値を上回ったが、小学5年、中学1・2年については目標値を下回った。 ・一部目標達成とならなかったが、全体的に前年度実績より向上しており、本事業の効果により学力向上へ繋がっていると考えられる。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・成果目標に至らないながらも、県平均との差については縮まっており、学力向上の取組の成果と考える。 ・各種調査やリーディングスキルテストを実施することにより、児童生徒の基礎的読解力等に課題があることは把握できたが、その結果を活用した実践事例が少なく、学校現場での具体的な授業改善に課題がある。	・読解力の向上を図りながら学力向上を引き続き推進する。 ・各種調査やリーディングスキルテストの調査結果を有効に活用した授業改善を行うことで、児童生徒の基礎的読解力が向上し、学力向上にもつながるため、学力調査等の結果・分析を授業に取り入れることができるよう、教職員の資質向上及び先進事例の実践をさらに努める必要がある。
今後の取り組み方針		
各種調査やリーディングスキルテストを継続的に実施することで児童生徒の実態を把握していく。また、先進地視察研修等も実施することで、教職員の資質・能力の向上につながり、児童生徒の学力向上にもつながると考える。		

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
12,792	12,792	10,233	2,559	0



資金の 使途の 流れ、 点検 費目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定は、地方自治法施行令に基づく随意契約により実施しており、妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、本事業の完遂に必要な費用に限られており、適正であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者との負担関係について研修旅費のみの補助であり、食費等は自己負担となっているため妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、学力調査委託料として目的に即し、受験者数に応じ支出しており適正であった。

市町村名	南風原町						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-④	学習支援員配置事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章－5－(2)－ア		
担当部課名	教育部 学校教育課	事業実施 (予定)年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	確かな学力を身に付ける学校教育の充実		
					Ⅲ－3－(1)		
事業内容	通常の授業についていけない児童生徒の学力向上を図るため、小・中学校に学習支援員を配置する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	30,621	40,173	35,072	35,956	43,028
		(b)予算現額	33,198	37,517	33,112	35,366	43,432
		(c)増減額(b-a)	2,577	-2,656	-1,960	-590	404
		(d)繰越額					
		A. 計(b+d)	33,198	37,517	33,112	35,366	43,432
		B. 執行済額	31529	35587	31444	34,238	43,432
		うち交付金充当額	25223	28469	25155	27,390	34,745
		次年度繰越額					
		執行率(%) (B/A)	95.0%	94.9%	95.0%	96.8%	100.0%
	予算の状況の説明	計画どおり学習支援員を小中学校に配置できた。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	学習支援員配置 小学校:8名(4校各2名配置)	目 標	(10名)	(10名)	(8名)	(8名)	
		実 績	10名	10名	8名	8名	
	学習支援員配置 中学校:4名(2校各2名配置)	目 標	(4名)	(4名)	(4名)	(4名)	
		実 績	4名	4名	4名	4名	
達成 状 況 説 明	小学校において12月に途中退職者がおり、募集を行ったが代替の人材を補充することはできなかった。しかし、年間を通じて概ね各校2名の学習支援員を配置することができた。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (年度)
	・小学校 沖縄県学力到達度調査の県と本町との平均 正答率の差の合計 算数-1.0ポイント以上	目 標	()	(算数-1.0ポイ ント以上)	(算数-1.0ポイ ント以上)	(算数-1.0ポイ ント以上)	()
		実 績		算数1ポイント	算数-2.9ポイント	算数-0.5ポイント	
	・中学校 沖縄県学力到達度調査の県と本町との平均 正答率の差の合計 数学+5.1ポイント以上	目 標	()	(数学+5.1ポ イント以上)	(数学+5.1ポ イント以上)	(数学+5.1ポ イント以上)	()
		実 績		数学-0.2ポイント	数学-1.5ポイント	数学+0.1ポイント	
	進 捗 状 況 説 明	県と本町との平均正答率の差を指標としたところ、小学校については-0.5ポイント、中学校については数学+0.1ポイントとなり、目標を達成することができなかったが、令和5年度と比較すると県平均との差は小さくなっている。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・小学校、中学校ともに目標を達成することができなかった。中学校においては目標よりも大きく下回った。しかし、前年度よりはポイントの差は縮まっている。 ・小学校においては割合の問題の正答率が低く、中学校においては関数の問題と数学的に説明する問題の正答率が低くなっている。	・算数、数学は習熟の程度が大きい教科といわれていることから、児童生徒の苦手な指導領域を把握し、個別に支援が必要な児童生徒に対し学習支援員を活用しながら、基礎学力の向上を行っていく必要がある。
今後の取り組み方針		
・今後も学習支援員の配置を行い、教員と学習支援員、教育委員会が一体となり、学力向上に取り組む。 ・学習支援員について、研修会等で指導や助言を行い、良い人材の確保及びスキル向上に繋げていく。 ・児童生徒の苦手分野を把握し、個々の児童生徒の習熟度に合わせた支援を引き続き行う。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>44,228</td><td>43,432</td><td>34,745</td><td>8,687</td><td>796</td></tr> </tbody> </table> 南風原町 43,432千円 報酬・期末手当 勤勉手当・通勤手当 38,479千円 小学校学習支援員(8人) 25,512千円 報酬・職員手当等 中学校学習支援員(4人) 12,967千円 報酬・職員手当等 共済費 4,953千円 日本年金機構・ 公立学校共済組合 4,953千円 共済費 ほか、交付対象外経費 796千円					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	44,228	43,432	34,745	8,687	796
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
44,228	43,432	34,745	8,687	796										
資金 使途の 流れ、 点検 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○学習支援員の選定は、採用前に面接を行い、資格や教職経験等を考慮して採用しており妥当である。 ○学校の授業規模にあった配置を行っており、予算規模は適正である。 ○費目使途が事業目的に即しているかについては南風原町の「南風原町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例」に決められた時給を支払っており適正である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	南風原町						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑤	特別支援教育支援員配置事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章－5－(2)－エ		
担当部署名	教育部 学校教育課	事業実施 (予定)年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	時代の変化に対応する魅力ある学校づくりの推進		
事業内容	通常学級で一斉指導についていけない発達障害等のある子どもに対し、学校生活や学習上の困難の改善を図るため特別支援教育支援員を配置する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	88,900	93,756	106,327	109,191	139,239
		(b)予算現額	80,292	97,468	94,086	103,677	145,798
		(c)増減額(b-a)	-8,608	3,712	-12,241	-5,514	6,559
		(d)繰越額					
		A. 計(b+d)	80,292	97,468	94,086	103,677	145,798
	B. 執行済額		74,508	89,300	85,614	102,193	144,623
	うち交付金充当額		59,606	71,440	68,490	81,754	115,698
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		92.8%	91.6%	91.0%	98.6%	99.2%
予算の状況の説明		会計年度任用職員給料改定分の差額支給に伴い、第4回計画変更で6,559千円の増額を行い予算現額は145,798千円となり、予定通り事業執行できた。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
	・特別支援教育支援員配置数 小学校:23人、中学校:6人、幼稚園:29人	目 標	(小学校23人 中学校6人 幼稚園24人)	(小学校23人 中学校6人 幼稚園25人)	(小学校23人 中学校6人 幼稚園25人)	(小学校23人 中学校6人 幼稚園29人)	
		実 績	小学校23人 中学校6人 幼稚園24人	小学校23人 中学校6人 幼稚園25人	小学校23人 中学校6人 幼稚園25人	小学校23人 中学校6人 幼稚園29人	
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
	達成状況説明	活動目標の人数を配置できたが、年度途中の採用・退職等により欠員が生じた期間がある。					
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (年度)
	対象となる児童生徒の保護者へのアンケートで、特別支援員の対応への満足度 80%以上	目 標	()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()
		実 績		96.5%	95.9%	97%	
	進捗状況説明	特別支援教育支援員の対応についてアンケートを実施し、満足度に関する質問については、対象の園児の保護者32人、児童・生徒の保護者105人、合計137人から回答を得られた。集計の結果、満足度97%と目標を達成した。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)											
取組の検証	・満足度に関するアンケート結果も97%と成果目標値を大きく上回っているの で、推進上の問題は特にない。年3回特別支援教育支援員の研修を行い、事 例研究や障害特性への理解や対応方法等を検討するなど、特別支援教育支 援員の質の向上に向けた取り組みが、目標値を上回っている要因として考えら れる。	・目標を達成しているので、大きな改善の余地はないと考えるが、保育園 や幼稚園、学校現場等から早めに情報提供を受け、必要となる人員の確 保に努めるとともに、早期の療育に努め、個々の状態に応じた支援を行う ことで、本事業の質の更なる向上が見込める。											
	今後の取り組み方針												
・今後も研修等を実施し、支援員の質の向上を図り、引き続き障害等のある園児、児童、生徒の支援を実施していく。また、支援児に係る情報を基に特別支援 教育相談員と教職員等で連携しながら、効率よい特別支援教育支援員の配置に努める。													
資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)													
<table><tr><td>総事業費</td><td>交付対象事業費</td><td>交付金充当額</td><td>市町村負担金</td><td>交付対象外経費</td></tr><tr><td>146,896</td><td>144,623</td><td>115,698</td><td>28,925</td><td>2,273</td></tr></table> 南風原町 144,623千円 報酬・期末手当 勤勉手当・通勤手 当 127,864千円 共済費 16,759千円 小学校特別支援教育支援員(23人) 59,080千円 中学校特別支援教育支援員(6人) 15,967千円 幼稚園特別支援教育支援員(29人) 52,817千円 日本年金機構・公立学校共済組合 16,759千円 ほか、交付対象外経費 2,273千円 報酬・職員手当等 共済費				総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	146,896	144,623	115,698	28,925	2,273
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費									
146,896	144,623	115,698	28,925	2,273									
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明										
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○特別支援教育支援員の選定は採用前に面接を行い、資格や経験等を考慮して採用しており選定方法は妥当である。 ○学校の授業規模にあった配置を行っており、予算規模は適正である。 ○費目・使途が事業目的に即しているかについては「南風原町会計年度任用職員の勤務時間、休暇等に関する規則」に決められた月給を支払っており適正であった。										
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。											
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。											

市町村名	南風原町											
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】												
事業番号・事業名	1-⑥	学校ICT推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-ア							
担当部課名	教育部 学校教育課		事業実施(予定)年度	平成24年～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進						
						Ⅲ-3-(1)						
事業内容	学校におけるICT機器を活用した授業を支援するため、ICT支援員を配置する。また、電子黒板一式や指導者用デジタル教科書などのICT機器等を整備し、授業環境の効率化を図る。											
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)											
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()											
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算 の 状 況	(a)当初予算額	R2年度	95,405	R3年度	20,046	R4年度	10,009	R5年度	11,717	R6年度	14,022
		(b)予算現額	88,117		26,759		8,866		13,398		14,680	
		(c)増減額(b-a)	-7,288		6,713		-1,143		1,681		658	
		(d)繰越額	-		-		-		-		-	
		A. 計(b+d)	88,117		26,759		8,866		13,398		14,680	
		B. 執行済額	85,073		25,873		8,866		13,398		13,880	
		うち交付金充当額	68,059		20,698		7,092		10,718		11,104	
		次年度繰越額	0		0		0		0		0	
		執行率(%) (B/A)	96.5%		96.7%		100.0%		100.0%		94.6%	
		予算の状況の説明	ICT機器を十分に活用できるようにICT支援員を小中学校に配置した。また、クラス増に伴い電子黒板一式の整備を図った。なお、ICT環境の充実を図るため、指導者用デジタル教科書の整備を行い、当初の計画通り、事業内容を全て実施することができた。									
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況									
				R3年度	R4年度	R5年度	R6年度					
	ICT支援員配置1名配置	目 標	(1名)	(1名)	(1名)	(1名)						
		実 績	1名	1名	1名	1名						
	ICT機器等の整備(電子黒板)	目 標	(小学校:1教室 中学校:6教室)	(小学校:3教室)	(小学校:3教室)	(小学校:1教室 中学校:1教室)						
		実 績	小学校:1教室 中学校:6教室	小学校:3教室	小学校:3教室	小学校:1教室 中学校:1教室						
	ICT機器等の整備(指導者用デジタル教科書)	目 標	()	()	()	(小学校:4校)						
		実 績				小学校:4校						
	【参考指標】 タブレットPC等を整備できていない教室への整備	目 標	(小学校:10教室 中学校:9教室)	()	()	()						
		実 績	小学校:10教室 中学校:9教室									
	【参考指標】 教育相談室などの特別教室へICTネットワーク環境の整備	目 標	()	()	(小学校:8教室 中学校:5教室)	()						
		実 績			小学校:8教室 中学校:5教室							
達成状況説明	・ICT支援員を計画通り配置することができた。 ・クラス増となった教室へ電子黒板一式の整備を行い、授業に対する興味や集中力を高める環境を整えることができた。 ・授業に役立つツールや映像等のデジタルコンテンツを児童生徒に提示できる指導用デジタル教科書を整備することができた。											

成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (年度)
	①教員にアンケートを実施し、ICT支援員の配置により、ICT機器の習熟度が上がった(授業でICT機器を活用して指導できる)と答えた割合:80%以上	目 標	()	(80%)	(80%)	(80%)	()
		実 績			94.06%	94.29%	83.04%
	②児童生徒にアンケートを実施し、電子黒板等を活用した授業の楽しさ及び分かりやすいと答えた割合:80%以上	目 標	()	(80%)	(80%)	(80%)	()
		実 績			91.37%	83.77%	81.27%
	進 捗 状 況 説 明	成果目標①では、3月に教員にアンケートを実施した。その結果、83.04%が習熟度が上がったと答え、目標を達成することができた。また、ICT支援員を継続して配置していることで、電子黒板などのICT機器の活用技術が向上しており、わかりやすく魅力ある授業が実施でき、教育の質の向上に繋げることができた。オンライン配信なども日常で行われており、ICT機器の習熟度が上がったことで、教育環境の幅を広げることができた。 成果目標②においては、3月に児童生徒に対しランダムで抽出を行いアンケートを実施した。その結果、81.27%が電子黒板等を整備したことで授業が楽しく分かりやすかったと答えており、目標を達成することができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	(ICT支援員を配置することによる教員のICT機器の習熟) ICT支援員を配置したことにより、教員による学校ICT機器の活用を積極的に行えることができた。さらに、オンラインを活用した学習活動、学校行事等の実施頻度が高まり、教員のICTスキル向上によって、児童・生徒の学びの保障と学習範囲の拡大に繋がった。 (電子黒板等を活用した授業の楽しさ及び分かりやすいと答えた割合) 成果目標である「電子黒板等を活用した授業の楽しさ及び分かりやすいと答えた割合:80%以上」とした、アンケート調査では81.27%の結果となり、目標の80%以上を超えることができた。学びの保障を確保するため、積極的に電子黒板等のICT機器を活用したことで、教員のスキルが向上し、楽しく分かりやすい授業ができた結果ではないかと考える。	(ICT支援員を配置することによる教員のICT機器の習熟) 継続してICT支援員を配置していることで、教員の授業の幅が広がり、オンラインを活用した授業などを積極的に実施するなど、ICT機器の活用スキルが全体的に向上している。今後も成果目標を80%以上と設定し、更なるICT機器の活用ができるよう、様々な事例などを紹介し教員の習熟度向上へと繋げていく。 (電子黒板等を活用した授業の楽しさ及び分かりやすいと答えた割合) 引き続き、成果目標の達成ができるように、様々なICTツールを活用した授業方法を取り入れ、マンネリ化させることなく児童生徒が集中して授業を受けることができる環境を提供していく。
今後の取り組み方針		
・ICT機器の活用を積極的に行うことで、教員のICT機器の習熟度をあげていく。そのためには、ICT支援員と連携をおこない学校内での研修や資料などによる情報の提供や共有などを実施し、活用提案などをおこなっていく。また、全体研修に加えて、教員のレベルや教科に応じた研修も行い、ICT機器の習熟度の向上に繋げていく。 ・コロナ禍以降、オンライン授業や学習を行うなど、授業スタイルが大きく変化したことも影響し、教育現場において今後もICTツールを活用した授業を取り入れる必要がある。電子黒板などのICT機器の利活用は児童生徒に人気であり、魅力ある授業をするうえでは必要不可欠となっている。今後も引き続き、児童生徒を惹きつける授業が行えるよう様々な方法を研究し、児童生徒の集中力を促す授業環境を提供していけるよう努めていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)							
			総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
			13,880	13,880	11,104	2,776	0
南風原町 13,880千円			委託料 7,260千円	株式会社 興洋電子 7,260千円	ICT支援員配置に係る委託料 支援員 1人		
			使用料 251千円	南部教育用品社 251千円	指導者用デジタル教科書使用料		
			備品購入費 6,369千円	南部教育用品社 1,503千円	指導者用デジタル教科書備品購入費 4小学校		
				沖縄県教科書供給株式会社 3,379千円	指導者用デジタル教科書備品購入費 4小学校		
				株式会社 興洋電子 1,487千円	小学校電子黒板購入に係る備品購入費 2小学校		

資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○地方自治法施行令に基づく指名競争入札及びプロポーザル方式で業者選定を行っており妥当であると考える。 ○各事業に係る予算が適正に積算されており、予算規模は適正な規模であった。 ○費目、使途については各事業における必要経費であり、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑦ 教育相談支援事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-イ		
担当部署名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心と健やかな体を育む学校教育の推進		
					Ⅲ-3-(1)		
事業内容	不登校児童生徒数の改善を図るため、小中学校に教育相談員等を配置し、不登校または不登校傾向にある児童生徒及び不登校や発達障害等の子どもへの対応に悩みを持つ保護者に対して相談等の支援を行う。また、学校に作業療法士を派遣し児童生徒の多様性に対応した学習環境を構築し、不登校の未然防止に取り組む。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	19,629	24,301	27,878	28,241	34,236
		(b)予算現額	19,290	24,301	23,791	31,235	33,626
		(c)増減額(b-a)	-339	0	-4,087	2,994	-610
		(d)繰越額					
		A. 計(b+d)	19,290	24,301	23,791	31,235	33,626
		B. 執行済額	19,379	22,070	22,022	31,061	33,037
		うち交付金充当額	15,503	17,656	17,512	24,848	26,429
		次年度繰越額					
		執行率(%) (B/A)	100.5%	90.8%	92.6%	99.4%	98.2%
	予算の状況の説明	執行率は前年度比1.2ポイント減の98.2%となったが、各相談員の欠員もなく、概ね計画どおりの予算執行ができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	・青少年教育相談員 1名配置 ・特別支援教育相談員 1名配置 ・自立支援教室支援員 2名配置 ・適応指導教室学習支援員 2名配置 ・心の教室相談員 6名配置	目標	(配置)	(配置)	(配置)	(配置)	
		実績	全部配置	全部配置	全部配置	全部配置	
	・作業療法士の派遣(4幼稚園、4小学校、2中学校)	目標	()	()	(派遣実施)	(派遣実施)	
		実績			派遣実施	派遣実施	
	・Q-Uテストの実施(小学校4校、中学校2校)	目標	()	()	(実施)	(実施)	
		実績			実施	実施	
	【参考指標】 ・登校支援車の購入 5台	目標	()	()	(5台)	()	
		実績			5台		
【参考指標】 ・作業療法士の派遣 66日	目標	(66日)	(66日)	()	()		
	実績	92日	132日				
達成状況説明	町内の小中学校に青少年教育相談員1名、特別支援教育相談員1名、自立支援教室支援員1名、適応指導教室学習支援員2名、心の教室相談員6名を配置し、不登校児童生徒及び保護者の相談等の支援を行うことができた。また学校等へ作業療法士を132回派遣し、児童生徒の多様性に対応した学習環境を構築し、Q-Uテストを実施し不登校の未然防止に取り組んだ。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	不登校児童生徒復帰数 : 14名	目標	()	()	()	(14名)	()
		実績				46名	
	【参考指標】 不登校児童生徒復帰率 : 22.8%以上	目標	()	(22.8%)	(22.8%)	()	()
		実績		6.3%	0.8%		
進捗状況説明	不登校児童生徒復帰数は目標値を上回った。各種相談員の配置による相談体制の充実、作業療法士を派遣し児童生徒の多様性に対応した学習環境の構築、Q-Uテストの実施により不登校傾向にある児童生徒の早期発見に取り組んだ。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・不登校児童生徒に対して早期の療育に取り組んでいるが、不登校児童生徒数は増加傾向にある。背景として、対人関係が苦手であったり、発達課題があったり、また学校に対する価値観の変化や不登校そのものに対する考え方の多様化、学校以外の学びの場の増など、複合的な要因が考えられる。そのため、児童生徒の多様性に対応した学習環境を整備する必要がある。また、一度不登校になると登校復帰が容易でない状況もあるため、学級不適應になる可能性の高い児童生徒の早期発見も課題である。	・各種相談員を配置することで、児童生徒、保護者、学校、福祉、医療等と連携し、児童生徒の多様性に対応できるよう、相談環境を整備しており、相談員相互の情報交換、スキルアップのための連絡会等を定期的に開催することで引き続き不登校傾向にある児童生徒を早期に発見する体制を強化する。 ・学習環境の構築のため、作業療法士を学校に派遣し児童生徒の多様性に対応できるよう学習環境を継続して整える。 ・支援員等の質の向上を図るため研修を実施し、Q-Uテストの結果を分析し、キャリアステージに即した手法を検討し、不登校傾向にある児童生徒の登校支援を継続する。
今後の取り組み方針		
・学校、地域及び行政等の関係機関が連携、協力し、児童生徒や保護者を取り残さないための教育相談体制を充実させ、継続した作業療法士の派遣、Q-Uテストの活用による学級不適應になる可能性の高い児童生徒の早期発見、キャリアステージに即した不登校対策、不登校傾向にある児童生徒の登校支援に取り組むことで、不登校の未然防止(分かり易い授業、進路指導の充実強化、ぬくもりのある学級経営など、魅力ある学校づくり)及び学校復帰に取り組む。		

資金の流れ						
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
		総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
		33,419	33,037	26,429	6,608	382
南風原町 33,037千円	報酬・期末手当 勤勉手当・通勤手当 17,053千円	青少年教育相談員(1名) 1,557千円		〔報酬・職員手当等〕		
		特別支援教育相談員(1名) 3,603千円		〔報酬・職員手当等〕		
		適応指導教室指導員(2名) 6,611千円		〔報酬・職員手当等〕		
		自立支援教室指導員(2名) 5,282千円		〔報酬・職員手当等〕		
	共済費 2,171千円	日本年金機構 市町村共済組合・公立学校共済組合 2,171千円		〔共済費〕		
	報償費 8,644千円	心の教室相談員(6名) 8,644千円		〔謝礼金〕		
	委託料 5,169千円	YUIMAWARU株式会社 こどもセンターゆいまわる 2,904千円		〔作業療法士派遣派遣委託〕		
		沖縄県教科書供給株式会社 2,265千円		〔教育相談支援事業委託業務hyper-QU〕		
			〔ほか、交付対象外経費 382千円〕			

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○各相談員の選定は採用前に面接を行い、資格や経験等を考慮して採用しており、また各契約等についても地方自治法施行令に基づく随意契約及び指名競争入札により実施しており妥当である。 ○予算規模は、本事業の完遂に必要な費用に限られており、適正であった。 ○費用・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されており、適正であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑧	中学校外国人英語指導助手配置事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-(3)-ア		
担当部課名	教育部 学校教育課	事業実施 (予定)年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	国際感覚を身に付ける教育の 推進		
事業内容	III-3-(1)						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	4,944	5,354	5,381	5,300	5,970
		(b)予算現額	4,944	5,354	4,986	4,837	5,984
		(c)増減額(b-a)	0	0	-395	-463	14
		(d)繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	4,944	5,354	4,986	4,837	5,984
	B. 執行済額		4879	5209	3572	4,835	5,956
	うち交付金充当額		3903	4167	2857	3,868	4,764
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		98.7%	97.3%	71.6%	100.0%	99.5%
予算の状況の説明		予定通り必要な人数の配置を行うことができた。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	中学校に外国人英語指導助手を1人配置する。	目 標	(1人)	(1人)	(1人)	(1人)	
		実 績	1人	1人	1人	1人	
達成 状況 説明	活動目標どおり外国人英語指導助手を年度当初から1人配置し、英語教育を展開することができた。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (年度)
	沖縄県学力到達度調査において、県と本町との平均正答率の差	目 標	()	(+5.0ポイント以上)	(+0.0ポイント以上)	(+1.0ポイント以上)	()
		実 績		1年:-3.9 2年:-4.6	1年:-1.1 2年:+1.2	1年:-1.3 2年:-2.9	
	・中学校1年・2年 英語+1.0ポイント以上	目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	【参考指標】	目標値を中学1年生は1.3ポイント、2年生は2.9ポイント下回り、いずれも目標達成には至らなかった。目標未達成の要因としては、小学校英語から中学校英語に移行する段階である1年生の段階で、英文法や英会話に対する抵抗感・苦手意識を持つ生徒が多かったことが影響していると考えられる。特に英語の表現や会話における即応性が求められる中で、生徒が自信を持って発話する機会が不足していたことも一因と捉えられる。今後は、外国人英語指導助手(ALT)をより積極的に活用し、あいさつや簡単な日常会話を通じた実践的なコミュニケーションの場を多く設けることで、生徒の英語への親しみや意欲を高め、苦手意識の解消を図っていく。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	沖縄県学力到達度調査において本町の平均正答率が県の平均正答率より中学1年生が1.3ポイント、2年生が2.9ポイント下回ったため目標値には届かなかった。目標値に至らなかった要因としては、英語や英会話に対する苦手意識を持つ生徒が影響していると考えられる。特に英語の表現や会話における即応性が求められる中で、生徒が自信を持って発話する機会が不足していたことも苦手意識を抱く一因と捉えられる。	・配置先の先生と外国人英語指導助手で協力して授業の工夫・改善を行っていき、応用分野でも苦手意識を持たないよう、英語の学力向上に努めていく。 ・今後はも引き続き外国人英語指導助手(ALT)をより積極的に活用し、あいさつや簡単な日常会話を通じた実践的なコミュニケーションの場を多く設けることで、生徒の英語への親しみや意欲を高め、英語の苦手意識の解消を図っていく。
今後の取り組み方針		
基礎から応用まで幅広い英文法や単語を用いて英会話やライティングを行ったり、また英語の学習において生徒達がどの分野で苦手なのかを分析する研修等を行い、外国人英語指導助手と配置先の先生で連携強化や指導力の向上を図る。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6,067</td><td>5,956</td><td>4,764</td><td>1,192</td><td>111</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	6,067	5,956	4,764	1,192	111
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
6,067	5,956	4,764	1,192	111										
南風原町 5,956千円 報酬・期末手当 勤勉手当・通勤手当 5,215千円 外国人英語指導助手(1人) 5,215千円 報酬・期末手当 勤勉手当・通勤手当 共済費 741千円 日本年金機構・公立学校共済組合 741千円 共済費 ほか、交付対象外経費 111千円														
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○外国人英語指導助手は採用前に面接を行い、資格や経験等を考慮して採用しており選定方法は妥当である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模について不用額はなく、適正な規模であった。											
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目使途が事業目的に即しているかについては南風原町の「南風原町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例」に決められた給与を支払っており適正であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	南風原町						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑨	南風原町県外等派遣支援事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-ウ 個性を伸ばし、自立に向けた資 質・能力を伸ばす教育の推進		
担当部署名	教育部 生涯学習文化課		事業実施 (予定)年度	平成25～令和13年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-3-(2)	
事業内容	将来の沖縄振興に資する人材育成のため、町内に在住する小学生・中学生及び地域青年会等が運動競技及び文化活動参加のため県外や国外へ派遣される場合に必要派遣費用の支援を行う。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()						
予算額・ 執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町 村負担」ベース)	予算 の 状 況		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
		(a)当初予算額	2,976	2,976	2,512	2,512	2,512
		(b)予算現額	976	2,000	1,269	1,269	3,892
		(c)増減額(b-a)	-2,000	-976	-1,243	-1,243	1,380
		(d)繰越額					
		A. 計(b+d)	976	2,000	1,269	1,269	3,892
		B. 執行済額	273	984	1,044	1,044	3,319
		うち交付金充当額	218	787	835	835	2,655
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	28.0%	49.2%	82.3%	82.3%	85.3%
予算の状況の説明	当初予定より派遣人数が伸び、218千円増額したが、最終変更決定後にさらに派遣者の増が見込まれたため、市町村内流用より他事業から1,162千円流用し、最終予算は3,892千円となった。当初予定していたより児童生徒等の派遣が多くなったため流用等はあるものの、適正な予算執行ができたと考える。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	児童・生徒及び青年会等大会派遣の支援	目 標	(派遣の支援)	(派遣の支援)	(派遣の支援)	(派遣の支援)	
		実 績	派遣費用支援の実施	派遣費用支援の実施	派遣費用支援の実施	派遣費用支援の実施	
	児童・生徒及び青年会等大会派遣の支援数 141人	目 標	(80人)	(140人)	(141人)	(141人)	
		実 績	80人	76人	71人	164人	
	達成 状況 説明	延べ164人の児童・生徒等に対し、運動競技や文化活動等の大会派遣に係る費用の支援ができた。 申請件数はR5年度の29件からR6年度は42件と増加し、支援数は目標値を超え達成できた。					
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (年度)
	対象児童等の視野が広がったか(80%以上)を含め、保護者等に対してアンケートを取り、本事業のあり方を検証する。	目 標	()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()
		実 績		87.7%	100%	100%	
	進捗 状況 説明	派遣人数は164人で、アンケートの結果によると「参加後、広い視野を持つ事ができた」と回答した児童生徒は100%、保護者も100%となり、目標値を達成できた。 また、「参加後、競技に対する意欲が向上した」と回答した児童生徒は100%、保護者も100%となり、「県外の高いレベルに触れる事で課題も見え、今後の練習につなげたい」、「今後もこのスポーツを更に頑張りたい」等の意欲向上の声もあり、成果を感じる。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・派遣者数については、前年度の約2倍以上となり、事業の認知度が高まった結果と考える。 ・アンケート結果が目標値を超えることができた。派遣後の児童生徒等の感想文からも向上心が育まれていることが分かり、事業の目的が達成できていると考える。 ・本事業は派遣費のうち航空券の半額を補助する事業であるが、派遣後のアンケートにおいては宿泊費の助成希望があった。	・申請件数等は児童生徒の大会等派遣であるため、随時調整することになるた、申請件数と予算について注視して事業を進める必要がある。 ・引き続き児童生徒を支援するため、事業の周知について学校等と密に連携をとり、今後も広報活動に努める。 ・複数回申請や宿泊費の助成については、より多くの生徒に補助金を交付するために上限の設定が必要だと考えるが、受益者との負担関係を考慮し慎重に検討をする必要がある。
今後の取り組み方針		
・申請件数と予算の執行状況を随時確認し、事業の進捗に合わせた補正予算や変更交付申請手続きを行う。 ・引き続き学校や町広報誌、ホームページ等で事業の周知を行い、学校と密に連携を取ることで対象となる児童生徒の把握に努め、支援に取り組む。 ・複数回申請や宿泊費の助成については、事業の趣旨・目的等も鑑み、また受益者との負担関係を考慮しながら、町において慎重に検討をする必要があることから、他市町村等の事例等も含め調査・研究を行う。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6,714</td><td>3,319</td><td>2,655</td><td>664</td><td>3,395</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	6,714	3,319	2,655	664	3,395
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
6,714	3,319	2,655	664	3,395										
南風原町 3,319千円 → 補助金 3,319千円 → 学校長・団体代表者等 42件・延べ164人 3,319千円 〔航空運賃又は港までの運賃への半額補〕 〔ほか、交付対象外経費(個人負担分) 3,395千円〕														
資金の流 れ、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○派遣対象者については、南風原町県外派遣に関する助成金交付要綱に照らして決定しており妥当である。 ○支援金額については普通運賃額を超えないように比較し、適正に金額を決定している。予算の規模も適正であり、要綱に基づき必要なものに限定して交付している。 ○受益者の負担も要綱に基づき実施しており、妥当であったと考えている。 ○事業達成に必要な分の金額のみを支出し、妥当な金額で実施している。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名		南風原町					
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑩	南風原町幼稚園体育活動充実事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－5－(2)－イ	
担当部課名	教育部 教育総務課	事業実施(予定)年度	平成28～令和6年度		沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心と健やかな体を育む学校教育の推進	
事業内容	幼少期に運動する楽しさを実感してもらい、その後の運動習慣を身に付けられるよう、幼稚園児を対象に専門的な知識を持つ講師による体育指導を実施する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	1,743	1,798	1,895	1,895	1,895
		(b)予算現額	1,549	1,798	1,895	1,840	1,840
		(c)増減額(b-a)	-194	0	0	-55	-55
		(d)繰越額					
		A. 計(b+d)	1,549	1,798	1,895	1,840	1,840
	B. 執行済額		1,548	1,718	1,778	1,840	1,840
	うち交付金充当額		1,239	1,374	1,422	1,471	1,471
	次年度繰越額						
	執行率(％)(B/A)		99.9%	95.6%	93.8%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		計画通り、プロポーザルにより業者を選定し、事業を執行することができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	町内4幼稚園での専門的な体育指導の実施	目 標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
		実 績	実施	実施	実施	実施	
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	町立4幼稚園で専門講師による体育指導を行い、各園5歳児27回、4歳児9回実施することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	運動する楽しさを実感したか(80%以上)を含め、アンケートによる本事業のあり方を検証する。	目 標	()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()
		実 績		94.12%	94.07%	92.81%	
	進捗状況説明	運動する楽しさについて、園児320人中297人が体育遊びが好きと回答し(92.81%)、目標を上回る結果となった。保護者へのアンケートでは94.2%の保護者が運動能力が上がったと実感しており、95.6%の保護者が本事業は良い取り組みだと回答を得た。このことから、本事業は保護者や園児からも高い評価を得ており、あり方についても評価されている。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	運動する楽しさを実感してもらえるように、事前に指導スケジュールや指導案等を委託業者と各園に調整を行った。事前に調整を行うことで、各園の教諭によるサポート等についても事前に計画を立てられ、園児に運動する楽しさを実感してもらえる取り組みとなった。前年同様、教諭への指導(座学・実技)も行った。	今後も園児に運動する楽しさを実感してもらい、運動習慣を身に付けてもらうために、これまでの教諭への指導(座学・実技)を活かして、幼稚園体育活動がより効果的な活動となるよう取り組む。
今後の取り組み方針		
これまで同様、子ども達に運動する楽しさを実感してもらえるように、教諭へのこれまでの指導(座学・実技)を活かして、今後も幼稚園体育活動がより効果的な取り組みとなるよう取り組む。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>1,840</td><td>1,840</td><td>1,472</td><td>368</td><td>0</td></tr> </table> 南風原町 1,840千円 委託料 1,840千円 株式会社太陽スポーツクラブ 1,840千円 〔南風原町立幼稚園体育活動充実支援委託業務〕					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	1,840	1,840	1,472	368	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
1,840	1,840	1,472	368	0										
資金の流 点検・費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○地方自治法施行令に基づく随意契約(プロポーザル実施)により実施しており、妥当であったと考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○事業内容に基づく事業執行を行い、支出先の選定についても妥当であったことから、予算規模は、適正であったと考える。											
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・使途が事業目的に即し必要なものに限定されており、適正であったと考える。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	南風原町						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑪ 南風原町各種大会派遣支援事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-ウ		
担当部署名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成25～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	個性を伸ばし、自立に向けた資質・能力を伸ばす教育の推進		
事業内容	県外の人との競争や交流の機会を増やし、児童生徒に広い視野を持たせるため、町内の小・中学校の児童生徒が、中学校体育連盟等が主催する県外で開催される運動競技大会又は文化関係大会に参加する際の大会派遣費用を支援する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a)当初予算額		1,200	1,200	1,739	2,159
		(b)予算現額		1,200	1,200	1,739	835
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	-1,324
		(d)繰越額					
		A. 計(b+d)	0	1,200	1,200	1,739	835
	B. 執行済額		事業中止	1,135	1,272	1,949	834
	うち交付金充当額			908	1,017	1,558	667
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		#VALUE!	94.6%	106.0%	112.1%	99.9%
予算の状況の説明		県外大会に参加する生徒に対し、派遣費の一部(航空券の2分の1)を補助した。 当初86人の派遣を見込んでおり、予定していた人数には充たなかったため1,324千円減額したが、概ね事業は目的通り達成できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	児童生徒の大会派遣の支援	目標	(35人)	(36人)	(83人)	(30人)	
		実績	延べ53人	延べ50人	延べ77人	延べ30人	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	運動競技大会に県代表として九州大会4種目、全国大会2種目に延べ30人の生徒を派遣し支援することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	保護者アンケートで児童生徒の視野が広がったと実感した割合:80%以上	目標	()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()
		実績		100%	100%	100%	
	進捗状況説明	本事業のあり方を検証するため保護者に対してアンケートを実施し、30人からの回答を集計した結果、全保護者から視野が広がるなど成長するうえでいい機会であるとの回答が得られた。また、変化を多く感じた項目は「2.出場した種目の競技の技能向上に向けて、更に努力するようになった」が87%「1.夢や目標を持つようになった。」が60%「10.時間を守る、メリハリをつけて行動するなど、時間管理が良くなった」、「11.両親や祖父母に感謝するなど、思いやりの心が向上した」、「15.団体行動において、規律を守る、他人に配慮するなど成長があった。」が40%の順となった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・成果目標である保護者アンケートで児童生徒の視野が広がったと実感した割合80%に対して、実績は100%となっているため特に課題はないが、今後も学校と密に連携をとり、補助対象の児童・生徒の把握に努め、実績100%を継続できるようにする。	・補助対象の児童生徒全員への支援については、本制度の周知と学校と密に連携をとることで、うまく事業を推進できているので、改善の必要はないものと考えられる。
今後の取り組み方針		
・引き続き学校へ本制度の周知を行い、学校と密に連携をとることで、対象となる児童生徒の把握に努め、補助対象の児童・生徒全員への支援に取り組む。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>1,669</td><td>834</td><td>667</td><td>167</td><td>835</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	1,669	834	667	167	835
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
1,669	834	667	167	835										
南風原町 834千円 → 補助金 834千円 → 町内2中学校 6件・30人 834千円 〔 航空運賃又は港までの運賃への半額補助 〕 〔 ほか、交付対象外経費(個人負担分) 835千円 〕														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法は、派遣費補助の取り扱い基準に基づき執行しており適正であった。 ○予算規模は、本事業の完遂に必要な費用に限られており、適正であった。 ○受益者との負担関係については、派遣費補助の取り扱い基準に基づき執行しており適正であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	南風原町						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑫	南風原町学校プール日よけ設置事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-(エ) 時代の変化に対応する魅力ある学校づくりの推進		
担当部課名	教育総務課	事業実施 (予定)年度	令和4～令和6年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-3-(1)		
事業内容	プール授業において児童生徒が安全に授業を行うことができるよう、熱中症対策のために日よけ設備の設置を行う。						
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(R7年度)						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☒ その他（工事）						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R4年度	R5年度	R5年度(繰越)	R6年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	2,179	12,100	—	21,978	
		(b)予算現額	1,870	30,960	—	21,978	
		(c)増減額(b-a)	-309	18,860	—	0	
		(d)繰越額	0	0	19,532	0	
		A. 計(b+d)	1,870	30,960	19,532	21,978	
	B. 執行済額		1,870	11,428	18,181	20,654	
	うち交付金充当額		1,496	9,142	14,544	16,523	
	次年度繰越額		0	19,532	0	0	
	執行率(%) (B/A)		100.0%	36.9%	93.1%	94.0%	#DIV/0!
予算の状況の説明		令和5年度に繰越が生じたものの令和6年度までに町立6小中学校について学校プール日よけ設置工事を予定通り実施できた。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R4年度	R5年度	R6年度		
	整備工事(町立1小学校、1中学校)	目 標		整備工事 (3小学校・1中学 校)	整備工事 (1小学校・1中学 校)		
		実 績		整備工事の完了 3小学校・1中学校	整備工事の完了 1小学校・1中学校		
	【参考指標】 実施設計の完了	目 標	(実施設計の完)	()	()		
		実 績	実施設計の完了				
達成 状 況 説 明	令和5年度に町立小中学校6校のうち4校、令和6年度に2校の学校プールについて日よけ設置工事を行い、町立小中学校について熱中症予防対策を完了することができた。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (R7年度)
	日よけ設備の設置により、整備箇所において熱中症者0人。	目 標	()	()	(0人)	(0人)	(0人)
		実 績			0人		
	【参考指標】 設計業務を完了する。	目 標	()	(実施設計の完了)	()	()	()
		実 績		実施設計の完了			
	進 捗 状 況 説 明	令和5年度繰越分の小学校3校、中学校1校はプール授業前に工事が完了し検証したところ目標を達成できた。令和6年度については年度末に整備工事完了となったことから、令和7年度に成果目標の検証を行う。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	- 令和6年度中の成果目標については工事をプール期間終了後に実施したことから、検証できていないため、令和7年度に成果目標の検証を実施する。 - 町立小中学校6校について、すべての学校プールに日よけを設置することができたことでプール授業実地中の熱中症発生リスクを軽減することができる。	令和6年度で事業は完成したが、今後は、学校と協力して安心してプール授業を受けることができるよう適正な管理が行われるように努める。
今後の取り組み方針		
学校と協力して炎天下における暑さ対策等安全を確保しながらプール授業を行い、幼少期における運動機能の向上を図る。		

南風原町
20,654千円

請負工事費
20,654千円

株式会社 プンキョウ技研
20,654千円

学校プール日よけ設置工事

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
20,654	20,654	16,523	4,131	0

資金使途の流れ、費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事の業者選定は指名競争入札により実施しており、妥当であったと考える。 ○予算規模については不用額が発生していないことから、適正な規模であったと考えている。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	南風原町観光景観美化整備事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－1－(1)－ウ	
担当部署名	経済建設部 都市整備課 教育部 生涯学習文化課	事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	人と環境に優しいまちづくりの推進 Ⅲ－1－(1)	
事業内容	沖縄らしい風景を保持するため、道路及び公園の草刈りや樹木の剪定を行い魅力的な観光地としての景観形成を図る。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a)当初予算額	34,482	45,288	30,159	33,992	42,092
		(b)予算現額	42,462	35,925	30,536	35,283	46,771
		(c)増減額(b-a)	7,980	-9,363	377	1,291	4,679
		(d)繰越額					
		A. 計(b+d)	42,462	35,925	30,536	35,283	46,771
	B. 執行済額		42,417	35,187	29,012	35,560	45,067
		うち交付金充当額	33,933	28,149	23,209	28,477	36,053
		次年度繰越額					
	執行率(%) (B/A)		99.9%	97.9%	95.0%	100.8%	96.4%
	予算の状況の説明		観光ルート及び公園の美化整備において、計画通り予算を執行し、事業を円滑に行う事ができた。				
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	観光ルートの町道メンテナンス完了	目 標	(18,400m)	(18,400m)	(18,400m)	(18,400m)	
		実 績	18,400m	18,400m	18,400m	18,400m	
	公園7箇所の景観美化完了	目 標	(公園7箇所)	(公園7箇所)	(公園7箇所)	(公園7箇所)	
		実 績	公園7箇所	公園7箇所	公園7箇所	公園7箇所	
	【参考指標】 フクギ並木通りの整備完了	目 標	(整備完了)	()	()	()	
		実 績	整備完了				
	達成状況説明	・景観美化作業員を14人雇用し、町道(18,400m)、公園(7箇所)、メンテナンス(草木の伐採等による景観美化の管理)を行うことで、沖縄らしい景観を保持し観光に貢献することができた。					
	成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度
魅力的な観光地としての景観形成が図られたか(80%以上)を含め、アンケートにより、本事業のあり方について検証する。		目 標	()	(80%)	(80%)	(80%)	()
		実 績		81%	86%	81%	
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
進捗状況説明	・道路美化に関するアンケートを行った結果、景観形成が図られたと思う割合が80%以上となっており、目標を達成することができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・アンケート結果は、景観形成が図られているが80%以上で目標達成であるが、今後も魅力的な観光地としての景観形成を継続行くためには、観光ルートの町道や公園の樹木の剪定や、清掃の美化整備を強化をする必要がある。本土に比べると雑草の生育が早く繁茂する期間が長いため、道路及び公園の優先順位の見直しや薬剤散布等を含め検討する必要がある。	・町道及び公園のメンテナンス(草木の伐採、清掃等による景観美化の管理)を恒常的に行うことで、町内の観光ルートの環境美化が図られた。今後はパトロール回数を増やし現状を把握するとともに、自治会等各清掃ボランティア団体との連携による観光ルートである道路や、公園の清掃美化の強化も含め、より効率的な人員配置行う必要がある。
今後の取り組み方針		
・観光ルート及び公園の現状把握及び環境美化(草木の伐採等)を継続し、優先順位の見直しや効果的な人員配置等により今後も景観美化の向上に努める。 ・観光地周辺自治会や道路・公園清掃ボランティア団体に呼びかけ、道路植栽樹に花植えや、清掃等の景観美化をするよう引き続き働きかけを継続する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>45,248</td><td>45,067</td><td>36,053</td><td>9,014</td><td>181</td></tr> </tbody> </table> 南風原町 45,067千円 報酬・期末手当 勤勉手当・通勤手当 39,103千円 景観美化作業 14人 39,103千円 報酬・職員手当等 共済費 5,299千円 日本年金機構・市町村共済組合 5,299千円 共済費 需用費 (消耗品費、燃料費) 247千円 消耗品費 201千円 燃料費 46千円 刈払機に係る消耗部品・燃料費 委託料 418千円 株式会社 ヨナハラ造園 418千円 壕出入口伐採委託業務 ほか、交付対象外経費 181千円					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	45,248	45,067	36,053	9,014	181
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
45,248	45,067	36,053	9,014	181										
資金使途の流れ、点検、評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
資金使途の流れ、点検、評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託の業者選定は町契約規則に基づき契約し、支出先である景観美化作業員は、町の基準で選定雇用しており妥当だと考えている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は町の基準で積算されており適正と考える。											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、額の確定時において事業目的達成の観点から必要なものなのか等について書類により確認し適正であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	南風原町						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②	ヒーローのまちづくり事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－3－(2)－ウ	
担当部署名	経済建設部 産業振興課	事業実施(予定)年度	平成25～令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	多彩かつ質の高い観光の推進	
事業内容	本町の観光振興及び地域活性化のため、南風原町が輩出した多彩な人材の功績や経歴、所有品等の観光情報発信イベントなどを定期的に行い、観光客を本町へ誘導する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	7,436	7,436	7,436	11,440	13,618
		(b)予算現額	7,436	7,436	5,467	11,110	13,127
		(c)増減額(b-a)	0	0	-1,969	-330	-491
		(d)繰越額					
		A. 計(b+d)	7,436	7,436	5,467	11,110	13,127
		B. 執行済額	7,348	7,348	3,795	9,900	12,210
		うち交付金充当額	5,878	5,878	3,036	7,920	9,768
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	98.8%	98.8%	69.4%	89.1%	93.0%
	予算の状況の説明	当初計画していた事業は概ね実施することができたが、約2か月職員1人が採用できなかった等の理由で執行額は減となった。しかし、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考える。					
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	イベント開催:3回 (金城哲夫生誕地イベント1回、飛び安里鳳上げ大会1回、ヒーローを題材にした舞台化:1回)	目 標	(1回)	(1回)	(1回)	(3回)	
		実 績	2回	4回	3回	4回	
	【参考指標】 脚本賞舞台化:1回	目 標	(1回)	(1回)	(1回)	()	
		実 績	1回	1回	1回		
達成状況説明	「イベント開催」については、金城哲夫生誕地イベントと称し、ウルトラマンの初代ヒロイン女優のトークショー及びウルトラマンショーを開催した。また生誕地の南風原町字津嘉山において上映会、町外の観光地で金城哲夫展を実施し、県内外から多くの来場者があった。その他ウルトラマン上映会、飛び安里鳳上げ大会等、各イベントを実施することができた。 舞台化は、ブラジル有数のパンメーカー「PANKO」を一代で築いた、南風原町出身のブラジル移民「與那嶺清照」氏をテーマに行い、2日間に渡り舞台公演を行った。また、舞台公演内容を収録し、YouTubeにて配信も行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(R13年度)
	イベント(上映会、鳳上げ、金城哲夫展等)来客者数:2,884人	目 標	()	(3,250人)	(3,250人)	(2,884人)	(4,200人)
		実 績		3,117人	2,990人	3,411人	
	進捗状況説明	イベント(上映会、鳳上げ、金城哲夫展)来客者数について、金城哲夫生誕地イベントにおいてトークショーおよびウルトラマンショー等を行い、ウルトラマン関連上映会、金城哲夫展等を開催し、金城哲夫生誕地イベント(1,937人)、上映会(279人)、鳳上げ大会開催(270人)、舞台はブラジル移民「與那嶺清照」氏をテーマに行い来場者(694人)、YouTube視聴者(231人)、計925人となった。 以上総合計で3,411人となり、目標を達成することができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・金城哲夫生誕地イベントについて、前回の反省を活かし、ウルトラマンの初代ヒロイン女優を招いてのトークショーを開催したことで来場者数の増に繋がった。 ・イベント実施については、活動目標及び成果目標を達成したが、一部イベントにおいて地域との連携の必要性を感じる部分があった。	・観光誘客に繋げるよう、今後も引き続きイベントの周知等に努める。 ・来場者が増えるようなイベントの実施において、イベント開催に係り地域や関係機関等との連携のさらなる強化が必要と考える。
今後の取り組み方針		
・金城哲夫氏関連イベントのトークショーについて、多くの来場者を呼ぶため、歴代ウルトラマン出演俳優だけではなく、関係監督等を招聘するなど、金城哲夫氏を中心とした町排出の人材の功績等を観光資源として誘客に繋げるようなイベント等の企画を行う。 ・イベントの周知については、各種SNSによる情報発信を強化し、加えてイベントの成功に向け、地域や関係機関等との連携強化を図り、より魅力的なイベントの実施に繋げる。		

資金の流れ				
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
南風原町 12,210千円 委託料 12,210千円 一般社団法人 南風原町観光協会 12,210千円 総事業費 12,210 交付対象事業費 12,210 交付金充当額 9,768 市町村負担金 2,442 交付対象外経費 0 ヒーローのまちづくり事業に係わる委託業務				
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○随意契約について、地方自治法施行令に基づき随意契約を行っており、妥当である。 ○予算規模は、事業計画に基づき予算執行していることから適正であると判断する。 ○費目・使途については、額の確定時において事業目的達成の観点から必要なものなのか等について書類により確認し、適正であった。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。		
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	南風原町							
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2-③	シマじまガイド事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－3－(2)－ウ		
担当部課名	経済建設部 産業振興課	事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	多彩かつ質の高い観光の推進		
事業内容	訪問客に南風原町の魅力を知っていただくため、着地型観光メニューとして「シマじまガイド」(名所案内巡り)を実施し、町内外からの観光客等を受け入れるシステムを構築し、観光振興を図る。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	10,516	10,516	10,516	10,516	11,616	
		(b)予算現額	10,516	10,516	10,516	10,516	9,415	
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	-2,201	
		(d)繰越額						
		A. 計(b+d)	10,516	10,516	10,516	10,516	9,415	
	B. 執行済額		8,492	7,964	8,294	8,294	6,570	
	うち交付金充当額		6,793	6,371	6,635	6,635	5,256	
	次年度繰越額							
	執行率(%) (B/A)		80.8%	75.7%	78.9%	78.9%	69.8%	
予算の状況の説明		当初計画していた事業は概ね実施することができたが、職員1人が採用できず、1人が約4か月で退職したため、予算額の減となった。しかしながら活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考える。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況					
				R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	ガイド養成新規:2名	目 標	(2名)	(2名)	(2名)	(2名)		
		実 績	2名	5名	3名	3名		
	シマじまガイド開催:12回	目 標	(12回)	(12回)	(12回)	(12回)		
		実 績	11回	7回	11回	12回		
達成状況説明	・ガイド研修を7回開催(内1回は悪天候のため中止)し、ガイドのスキルアップを図った。その結果3名の新規ガイドを養成することができた。 ・シマじまガイドは津嘉山大綱曳き応援ツアーや戦跡ツアー等、地域の伝統行事と連動した新たなツアーや戦跡巡りを実施し、12回開催することができた。							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)			基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (R13年度)
			目 標	()	(1,700人)	(1,700人)	(983人)	(1,520人)
	シマじまガイド事業参加者:983人		実 績		1,128人	1,253人	2,765人	
	進捗状況説明	・シマじまガイド事業について、ツアー参加者168人、イベント参加者377人、SNSでのツアー動画視聴者数2,220人、合計2,765人の参加者があった。ガイドによる映像を使ったデモンストレーションやSNSを活用する等新たな取り組みを行い、達成することができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・SNS等の活用だけでなく、リール動画を取り入れたことで、参加者の増に繋がった。 ・外国人への対応として、通訳案内士の資格を持ったガイドを配置し、英語版のパンフレットも作成したが、外国人参加者の大幅な増に繋がらなかった。	・SNS等の効果的な活用など情報発信の強化を引き続き実施する。 ・インバウンド対応として外国人向けの情報発信を工夫する必要がある。
今後の取り組み方針		
引き続き観光メニューの開発に取り組み、情報発信を強化する。また外国人向けの情報発信を工夫・強化し、外国人参加者の増に繋げる。		

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位: 千円)

総事業費	交付対象事業費			交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
6,570	6,570	5,256	1,314	0

```

graph LR
    A[南風原町  
6,570千円] --> B[委託料  
6,570千円]
    B --> C[一般社団法人  
南風原町観光協会  
6,570千円]
    C --- D([シマじまガイド事業に関わる委託業務])
            
```

資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○随意契約について、地方自治法施行令に基づき随意契約を行っており、妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○事業内容に基づく事業執行を行い、また支出先の選定は、上記説明のとおり妥当であると判断していることから
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	予算規模は適正であると判断する。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、額の確定時において事業目的達成の観点から必要なものなのか等について書類により確認し、適正であった。

市町村名	南風原町						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-④	黄金森公園スポーツ施設活性化事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(9)-ア	
担当部課名	教育部 教育総務課	事業実施(予定)年度	平成25～令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	スポーツ関連産業の振興と地域の活性化	
事業内容	Ⅲ-1-(1)						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	20,168	24,583	25,178	23,346	26,868
		(b)予算現額	20,268	24,583	25,566	23,162	27,561
		(c)増減額(b-a)	100	0	388	-184	693
		(d)繰越額					
	A. 計(b+d)	20,268	24,583	25,566	23,162	27,561	
	B. 執行済額		20027	22548	25254	23,166	27,329
	うち交付金充当額		16021	18037	20203	18,532	21,863
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		98.8%	91.7%	98.8%	100.0%	99.2%
予算の状況の説明		当初計画通り、管理職員の配置、黄金森公園芝生管理委託業務を執行することができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	陸上競技場及び野球場芝生の管理委託	目 標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
		実 績	実施	実施	実施	実施	
	スポーツキャンプ備品購入	目 標	(実施)	(実施)	()	(実施)	
		実 績	実施	実施		実施	
達成状況説明	Jリーグキャンプ受入のため、練習場芝生整備を実施し、サッカーJリーグチームの春季キャンプ、ソフトボールキャンプ、及び県外大学等の陸上競技合宿を誘致した。サッカーキャンプ及び大規模大会運営に必要な備品を整備したことにより受け入れ体制が強化できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	陸上、サッカー等合宿利用者数:560人(実人数)	目 標	()	(ー)	(ー)	(560人)	()
		実 績		(参考)503人	(参考)521人	583人	
	Jリーグキャンプ・全国大会等来場者数:2,600人	目 標	()	(6,000人)	(6,000人)	(2,600人)	()
		実 績		2,514人	2,615人	2,132人	
	【参考指標】 陸上、サッカー等合宿利用者数:1,300人(延べ人数)	目 標	()	(1,300人)	(1,300人)	()	()
		実 績		1,094人	1,601人		
進捗状況説明	・合宿利用者数については、サッカーJリーグチーム春季キャンプ101人、ソフトボールチーム30人、県外大学等の陸上競技合宿で452人、合計583人が利用した。(利用者数計算方法を令和6年度から実人数としたことにより、R4年度～R5年度の人数は参考。) ・J1リーグ1チームの春季キャンプが実施され2,132人の来場者となった。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・スポーツ合宿利用団体数は、昨年度の20団体から26団体へと増加となったが利用者数は昨年度の521人から583人へ増加となった。昨年も利用した団体は15団体で半数以上が継続的に利用している。 ・合宿実施種目としてはサッカー、陸上、ソフトボールの3種目の受け入れとなった。新規チームの受け入れについて、次年度以降も継続した受け入れが行えるよう、利用者の要望などをヒアリングを行う必要がある。また、新たな種目・チームの受け入れについても検討しながら誘致に取り組んで行くことが必要となる。 ・来場者数については、目標人数を達成することができなかった。サッカーキャンプ中のトレーニングマッチの1試合が他会場で実施したことも影響した。キャンプスケジュールや練習試合の対戦相手の情報が公開されるのが直前となることや、来場者も楽しめる継続したキャンプ地づくりに一部不足があったことも来場者が増加しない要因と考えられる。	・これまで継続的に受け入れを行っているスポーツ合宿利用団体については、さらに細かくヒアリングを行い連携することでリピーターに繋げる。 ・新規チームに対しても、合宿後に要望等を聞き取り、施設環境をより充実させることで継続的な合宿利用に繋げる。 ・新たな種目・チームの受け入れを目指し、各種目の練習環境や合宿期間などを調査研究し、施設に合ったチームの受け入れを目指し取り組んで行く必要がある。 ・キャンプスケジュールを可能な限り早く、多くの方に発信することや、キャンプ来場者を対象にしたイベントの開催や特典を設けるなど、実現に向けてこれまで以上に関係者と連携していくことにより、魅力あるキャンプ地をつくっていく。
今後の取り組み方針		
・スポーツ合宿利用団体と細かく調整を行い、利用する際の要望や、利用後の反省点などを踏まえ、施設環境整備も含めた受け入れ体制を充実させていくことにより、継続的な合宿利用に繋げていく。 ・次年度以降、既存の受け入れチームの継続実施に加えて、新たな種目の合宿実現に向け、施設の充実をPRするとともに、誘致関係者(沖縄県スポーツ協会)などとも連携をとりながら推進していく。 ・来場者を対象にしたイベント等の実現に向けて、キャンプ実施チームや観光を含めた各種団体とこれまで以上に連携をとりながら事例調査から実施案の作成まで進めていく。また、キャンプ関連の情報発信についてSNSの活用等も含め、誘客につなげる周知活動に取り組む。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>27,329</td><td>27,329</td><td>21,863</td><td>5,466</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	27,329	27,329	21,863	5,466	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
27,329	27,329	21,863	5,466	0										
南風原町 27,329千円 報酬・期末手当 勤勉手当 陸上競技場管理職員(4人) 9,908千円 報酬・職員手当等 共済費 921千円 日本年金機構・市町村共済組合 921千円 共済費 委託料 14,960千円 東洋グリーン(株)沖縄営業所 14,960千円 黄金森公園芝生管理委託業務 備品購入費 1,540千円 (株)沖縄スポーツ 1,540千円 人工芝台車、ワンタッチテント購入														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目		評価に関する説明										
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○各契約等については地方自治法施行令に基づく随意契約及び指名競争入札により実施しており、妥当であったと考える。										
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○事業内容に基づく事業執行を行い、支出先の選定についても妥当であったことから、予算規模は、適正であったと考える。										
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。		○費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されており、適正であったと考える。										
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されており、適正であったと考える。										

市町村名	南風原町						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑤	南風原町観光PR促進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－3－(2)－ウ		
担当部署名	経済建設部 産業振興課	事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	多彩かつ質の高い観光の推進		
事業内容	本町の認知度向上と地域資源の情報発信を図るため、イメージキャラクターのはえるんや野菜のお友達を活用し、様々なイベントに出演して町特産品や観光関連のPRを実施する。また、観光PRコンテンツを制作及び活用し観光誘客につなげる。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	4,428	4,914	4,990	6,246	11,305
		(b)予算現額	4,424	4,914	4,990	9,538	11,518
		(c)増減額(b-a)	-4	0	0	3,292	213
		(d)繰越額					
		A. 計(b+d)	4,424	4,914	4,990	9,538	11,518
	B. 執行済額		4398	4286	4798	8,552	11,453
	うち交付金充当額		3518	3428	3838	6,841	9,162
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		99.4%	87.2%	96.2%	89.7%	99.4%
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容を概ね実施し適正に予算執行することができた。不用額65千円については、はえるんPR活動費(消耗品等)の減によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	はえるん等利用数:50件	目 標	(50件)	(50件)	(50件)	(50件)	
		実 績	28件	38件	44件	39件	
	イメージキャラクターによる観光PR活動(1年間で60回)	目 標	(100回)	(100回)	(60回)	(60回)	
		実 績	43回	89回	95回	78回	
	県外誘客活動(誘客イベント)の実施	目 標			(実施)	(実施)	
		実 績			実施	実施	
	観光PRコンテンツ制作の実施	目 標				(制作)	
		実 績				制作完了	
達成状況説明	・はえるん等利用数(ロゴ申請数)は目標値には届かなかったが、イメージキャラクターによる観光PR活動(出動回数)については、自らイベント等を企画・開催したことに加え、町外での認知度向上のため、ご当地キャラ関連のイベントに積極的に参加することにより、はえるん及びはえるんの出動について周知を行うことができ、目標を上回ることができた。 ・県外誘客活動(誘客イベント)の実施については、四国最大級のご当地キャライベントご当地キャラまつりin須崎に参加し、県外のご当地キャラファンへの認知度向上と南風原町への誘客を図ることができた。 ・観光PRコンテンツ制作については、津嘉山大綱曳きの動画作成およびYoutubeにて公開し、南風原町のPRをすることができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(R13年度)
	SNS(インスタグラム)閲覧数:102,000件	目 標	()	()	(64,800件)	(102,000件)	(236,000件)
		実 績			188,536件	243,865件	
	観光サイトアクセス数:207,500件	目 標	()	(207,500件)	()	()	()
		実 績		112,863件			
	進捗状況説明	・インスタグラムメインアカウント(主にはえるんでの出動情報とおした南風原町PR内容)での更新回数は、昨年度とほぼ同数となったものの、様々なSNS媒体で新たなファン層の獲得を図り、他のSNSの投稿にも力を入れた結果、相乗効果でインスタグラムメインアカウントでもフォロワー数を伸ばすことができた。積極的なイベント出演や様々な媒体による情報発信により、多くの方に南風原町及びイメージキャラクターはえるんに関心を持たせ、新たなファン層を獲得したことで大幅に目標を上回ることができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・これまでの活動により、町外において、イメージキャラクターはえるんと本町の認知度が低いという課題があったため、令和6年度はステッカー制作の際にQRコード(SNS誘導)をつけフォロワー獲得を図ったり、ご当地キャラ関係のイベント等に積極的に参加し、他キャラのファンへの認知度向上を図ったことから、順調に町外のファンを獲得することができた。SNSを通じて、南風原町への興味を持ってもらえたことが目標値達成の要因と考えられる。	・これまでの活動により、少しずつ町イメージキャラクターはえるん及び南風原町の認知度は向上してきているものの、南風原町への観光誘客に繋がるほどの認知度は得られていない状況である。引き続きイメージキャラクターはえるん及び南風原町の認知度向上の強化を図るため、令和5年度・6年度の県外誘客活動で構築してきたご当地キャラの繋がりがりや経験を活かし、新たなファン層獲得のため、現代の情報発信ツールの主流であるSNSでの情報発信に力を入れる必要がある。
今後の取り組み方針		
引き続き、町内外へ向け、それぞれのSNSやネットの特徴を活かした、町イメージキャラクターはえるんの活動及び町の観光PRを実施する。また、はえるんをメインとしているアカウントのみならず、町内(観光)情報発信をメインとしているアカウントやサイト等に閲覧者を誘導できる流れを構築し、地域資源の情報を更に多くの方に届け、南風原町への誘客に繋がるよう取り組む。加えてSNSを含むネット等の露出のみならず、引き続き町内外の様々なイベントに出演し、町特産品や観光関連のPRを実施し観光誘客に繋げる。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
南風原町 11,453千円	報酬・期末手当 勤勉手当 6,458千円	観光振興会計年度任用職員 2人	総事業費 11,453	交付対象 事業費 11,453
	共済費 883千円	日本年金機構・市町村共済組合	交付金 充当額 9,162	市町村 負担金 2,291
	旅費 278千円	観光振興会計年度任用職員 2人 通勤手当 48千円	交付対象 外経費 0	
		県外誘客活動(2人)		
	需要費 312千円	消耗品費 68千円		
		印刷製本費		
	役務費 17千円	通信運搬費 17千円		
	委託料 3,503千円	株式会社シネマ沖縄 3,503千円		
	使用料 2千円	使用料 2千円		
資金の 使途の 流れ、 点検、 費目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○各契約等については地方自治法施行令に基づく随意契約及び指名競争入札及び町契約規則により実施しており、妥当であったと考える。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、本事業の遂行に限られた経費となっており、適正であった。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について確認し、適正であった。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	南風原町						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑥	南風原町商品展開力強化支援事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章－3－(1)－ウ		
担当部課名	経済建設部 産業振興課	事業実施 (予定)年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	中小企業等の経営基盤の強化 による「稼ぐ力」の向上		
事業内容	本町の中小・小規模事業者が地域資源を活用して製造及び販売する商品を消費者ニーズにあった魅力ある商品へブラッシュアップするための支援を行う。また、商品の製造ラインや販売方法の課題を専門家のアドバイス等により解決を図るとともに、ブランド認証及びプロモーションにより県内外の消費者へ周知し、地域産品の売上の拡大を図る。						
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(令和7年度)						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	14,993	14,993	15,356	17,809	18,304
		(b)予算現額	14,993	14,993	15,356	17,809	18,304
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d)繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	14,993	14,993	15,356	17,809	18,304
	B. 執行済額		14,047	14,377	15,114	17,809	17,292
	うち交付金充当額		11,237	11,501	12,091	14,247	13,833
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		93.7%	95.9%	98.4%	100.0%	94.5%
予算の状況の説明		販路開拓やブランド認証制度の運用業務等を委託し実施した。 県外視察研修については2回を予定していたが、関係者・参加予定者のスケジュール調整が難航し、十分な参加人数を確保できなかったため1回の研修となった。その他については、おおむね予定通り事業執行することができた。 委託料については、実績に伴い変更契約(減額)を行った。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	商品改良相談(延べ50件)	目 標	()	(延べ50件)	(延べ50件)	(延べ50件)	
		実 績		延べ47件	延べ72件	延べ147件	
	視察研修(2回)	目 標	()	()	()	(2回)	
		実 績				1回	
	企業マッチング相談(10件)	目 標	()	(10件)	(10件)	(10件)	
		実 績		3件	15件	14件	
	品質向上セミナーの実施(1回)	目 標	()	(3回)	(3回)	(1回)	
		実 績		3回	2回	1回	
	販路開拓セミナーの実施(1回)	目 標	(6回)	(2回)	(2回)	(1回)	
		実 績	6回	1回	3回	1回	
	催事への出展やテスト販売の実施(18回以上)	目 標	()	(2回)	(2回)	(18回)	
		実 績		1回	3回	17回	
	優れた特産品の町内ブランド「はえばる良品」の認証(更新含む5件)	目 標	(2件)	(5件)	(5件)	(5件)	
		実 績	9件	9件	8件	9件	
	物産展の開催(1回)	目 標	()	()	()	(1回)	
		実 績				1回	
	【参考指標】 地域産品の販路開拓(テスト販売の実施5回)	目 標	(5回)	(5回)	(5回)	()	
		実 績	5回	5回	16回		
【参考指標】 商談会など催事への出展(2回)	目 標	()	()	(2回)	()		
	実 績			2回			
【参考指標】 町内事業者を対象に商品開発に関するワークショップの開催(5回)	目 標	(5回)	()	()	()		
	実 績	5回					
達成状況説明	県外視察研修については2回の実施を予定していたが、関係者・参加予定者のスケジュール調整が難航し、十分な参加人数を確保できなかった理由から1回の開催となった。 その他の活動目標については予定通り実施することができた。						

成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (年度)
	改良商品の販売向上率(個数):前年度比4%以上UP	目 標	()	(4%以上)	(4%以上)	(4%以上)	()
		実 績		44.2%	28.5%		
	商品改良の実施	目 標	()	(実施)	(実施)	(実施)	()
		実 績		実施	実施	実施	
	「はえばる良品」の認証の実施	目 標	()	(実施)	(実施)	(実施)	()
		実 績		実施	実施	実施	
進捗状況説明	令和5年度に改良を行った5商品のうち、リニューアル中のモリノ茶を除き全て販売個数が増加し、合計販売個数を比較した販売向上率(前年度比)は、28.5%増であった。 令和6年度は商品改良5件と「はえばる良品」の認証9件(内、再認証4件)を行った。 本事業は後年度に効果が発現する事業であることから、令和6年度の成果目標は、令和7年度の販売向上率(個数)を指標にしている。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・販売向上率については成果目標を達成したが、島しょ県であることから物価高騰の影響が大きく、商品改良の実施にあたっては、原材料やパッケージ変更などの対応も必要となっている。	・物価高騰の影響を受ける中で、県外での競争力を維持するため、原材料やパッケージ、価格設定の見直しを行い、さらなる販売向上につなげる取組が必要である。
今後の取り組み方針		
・物価・経済動向に伴う原価計算の見直しや適正売価設定の算出方法について専門家によるセミナー等を実施し既存商品のブラッシュUPを図り、地域産品の売上の拡大を図る。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
17,336	17,292	13,833	3,459	44

南風原町
17,292千円

委託料
17,292千円

南風原町商工会
17,292千円

〔南風原町商品展開力強化支援事業〕
に係る委託業務

ほか、交付対象外経費
44千円

資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者の選定については地方自治法施行令に基づく随意契約により実施しており、妥当である。 ○予算規模は、本事業の遂行に限られた経費となっており、適正であった。 ○費目・使途については、額の各提示において事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、書類により確認を行っており、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑦ 南風原町和牛改良支援事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第4章－3－(7)－ア		
担当部署名	経済建設部 産業振興課	事業実施(予定)年度	平成27～令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の確立	
						Ⅲ－1－(6)	
事業内容	農家の経営安定化に向け、子牛の品質向上により高価格で出荷できるよう優良母牛導入経費の一部を支援する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	2,000	1,000	1,000	1,000	1,000
		(b) 予算現額	1,000	930	812	605	500
		(c) 増減額(b-a)	-1,000	-70	-188	-395	-500
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	1,000	930	812	605	500
	B. 執行済額		954	930	812	605	294
	うち交付金充当額		763	744	649	483	234
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		95.4%	100.0%	100.0%	100.0%	58.8%
予算の状況の説明		当初、母牛2頭の導入を予定していたが、補助交付変更申請があり、優良母牛1頭の導入となったため、500千円を減額した。1頭分減額した理由は、購入資金の検出困難等によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	優良母牛導入の導入支援完了:1頭	目 標	(2頭)	(2頭)	(2頭)	(1頭)	
		実 績	2頭	2頭	2頭	1頭	
達成状況説明	目標のとおり、優良繁殖雌牛を1頭導入した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	導入した優良母牛から生まれた子牛と導入牛以外の牛から生まれた子牛との価格差の割合(牝)110%、(去勢)110%以上		目 標	(牝)110% (去勢)110%	(牝)110% (去勢)110%	(牝)110% (去勢)110%	(牝)110% (去勢)110%
			実 績	(牝)105.29% (去勢)108.7%	(牝)88.03% (去勢)103.57%	(牝)94.68% (去勢)85.35%	
	進捗状況説明	・今年度は牝牛、去勢牛ともに発育不良の個体が平均販売価格を押し下げたため達成できなかった。 【導入対象農家の子牛平均落札価格実績(南部家畜市場提供)】 導 入 牛 (A)373,345円(牝10頭)、386,986円(去勢8頭) 非導入牛 (B)394,319円(牝15頭)、453,429円(去勢10頭) 価格差(A/B)=94.68%(牝)、85.35%(去勢)					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・世界的な物価高騰と円安の進行により飼料価格が高止まりし、子牛買い手の買い控えが起こり、子牛売買平均価格が令和3年度頃から価格の下落が続いていることから、導入した優良母牛から生まれた子牛と導入した優良母牛以外の牛から生まれた子牛との価格差の目標について達成ができなかった。	・優良母牛を導入し、子牛のブランド化を図っているものの、引き続き出荷頭数及び価格差目標実績の低下がみられるため、継続して飼養管理技術向上及び優良母牛の更新が必要である。また、子牛の価格向上を図るため発育不良要因について情報収集し、改善を図る。
今後の取り組み方針		
・農家の経営安定及び所得向上を図るため、引き続き関係機関と協力して飼養管理技術の向上と優良母牛導入を支援する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>650</td><td>294</td><td>235</td><td>59</td><td>356</td></tr></table> 南風原町 294千円 → 補助金 294千円 → 南風原町 和牛生産組合 294千円 → 購入先セリ市場 650千円 〔和牛改良支援事業補助金〕 〔和牛生産組合負担金 (交付対象外経費) 356千円〕					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	650	294	235	59	356
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
650	294	235	59	356										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は町内農家で構成された団体であり、選定は妥当であると判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額はあるが、セリによる落れであるため妥当な規模の範囲内と判断した。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である農家は総事業費の5割以上を負担しており、事業内容からして妥当であると判断した。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即した必要なものであると判断した。											

市町村名	南風原町						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑧ 南風原南インターチェンジ周辺企業集積推進事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(1)-ウ 中小企業等の経営基盤の強化 による「稼ぐ力」の向上			
担当部課名	経済建設部 まちづくり振興課	事業実施 (予定)年度	令和1～令和9年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(1)		
事業内容	企業誘致等による産業振興の発展を図るため、南風原南インターチェンジ周辺津嘉山地区について地区計画を策定し、具体的に計画を実現することで産業振興の発展に寄与する。						
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(令和9年度以降)						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R4年度(繰越)	R6年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,895	3,982	6,310		4,026
		(b) 予算現額	4,510	3,520	5,610		3,817
		(c) 増減額(b-a)	-385	-462	-700	0	-209
		(d) 繰越額				5,610	
	A. 計(b+d)		4,510	3,520	5,610	5,610	3,817
	B. 執行済額		4,510	3,520	0	5,610	3,817
	うち交付金充当額		3,608	2,816		4,488	3,053
	次年度繰越額		0	0	5,610	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		令和6年度は入札残を減額し、予定通り執行することができた。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R6年度	
	津嘉山地区北エリア:地区計画検討・策定	目標	()	()	()	(地区計画 図書作成)	
		実績				図書作成完了	
	津嘉山地区南エリア:地権者組織の立ち上げ	目標	()	()	()	(地権者組織 の立ち上げ)	
		実績				地権者代表組織リストの作成完了	
	【参考指標】 照屋地区:都市計画決定に向けた図書作成	目標	()	()	(図書作成)	()	
		実績			図書作成完了		
	【参考指標】 津嘉山地区:整備計画図の検討	目標	()	()	(計画図検討)	()	
		実績			計画図検討済		
	【参考指標】 ・前提条件の整理 (まちづくりの現状・課題の整理等) ・区域検討を含む土地、権利調査 ・関係地権者意向調査 ・関係機関との協議支援	目標		(実施)	()	()	
		実績		実施			
	【参考指標】 ・土地利用計画(案)の策定	目標	(実施)	(実施)	()	()	
		実績	実施	実施			
	【参考指標】 計画条件の整理完了	目標	(実施)	()	()	()	
		実績	実施				
	【参考指標】 地権者及び地域との意見交換会、勉強会の開催	目標	(実施)	()	()	(実施)	
実績		実施			勉強会・意見交換会 2回		
達成状況説明	・津嘉山地区北エリアについて、沖縄県と協議するための地区計画に係る図書を作成することができた。 ・津嘉山地区南エリアについて、正式な地権者組織の立ち上げには至っていないが、地権者を集めた意見交換会及び勉強会を2回開催し、地権者組織の立ち上げに向け、地権者代表者リストの作成を行い、組織立ち上げの土台作りを完了できた。						

成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値 (年度)	R3年度	R4年度	R6年度	目標値 (R9年度)
	津嘉山地区北エリア:地区計画の策定	目 標	()	()	()	(地区計画 策定)	
		実 績				地区計画 図書作成完了	
	【参考指標】 照屋地区:都市計画決定の図書作成完了	目 標	()	()	(図書作成完了)	()	
		実 績			図書作成完了		
	【参考指標】 津嘉山地区:整備計画図の策定完了	目 標	()	()	(策定)	()	
		実 績			策定		
	【参考指標】 南風原北インターチェンジ周辺土地利用計画 (案)の策定完了	目 標	()	(策定)	()	()	()
		実 績		策定			
	【R9成果目標】 企業誘致2社以上	目 標	()	()	()	()	(2社)
		実 績					
進 捗 状 況 説 明	津嘉山地区北エリア:沖縄県と協議するための地区計画の検討を行い、地区計画の図書作成を完了することができた。 津嘉山地区南エリア:地権者組織を立ち上げるための機運づくりのために、意見交換会・勉強会を2回開催することができ、地権者 代表者リストの作成を行った。						

取組 の 検 証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	津嘉山地区北エリア:北エリアの一部区域に農振農用地が入っており、沖縄県との協議をする時間が必要である。 津嘉山地区南エリア:地権者の中には、自己利用希望や土地利用に対しての不安のある地権者もいるため、勉強会を実施することで土地利用への理解を深める必要がある。	津嘉山地区北エリア:沖縄県との協議により、農振農用地の除外をする必要がある。 津嘉山地区南エリア:地権者組織を立ち上げ、組織を中心に粘り強い説明を実施していく必要がある。
今後の取り組み方針		
企業誘致を進めるため、地域及び関係機関と密な連携を図り、事業を推進する。 津嘉山地区北エリア:沖縄県との協議を行い、農振農用地の除外をする方向で土地利用の転換を図る。(沖縄県と農振農用地の除外に向けて協議中) 津嘉山地区南エリア:地権者組織を立ち上げ、整備手法や協力企業の検討を行い、段階的に土地利用の転換を図る。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
南風原町 3,817千円 委託料 3,817千円 株式会社国建 3,817千円 南風原南インターチェンジ周辺 (津嘉山地区)地区計画策定業務 <table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象 事業費</th><th>交付金 充当額</th><th>市町村 負担金</th><th>交付対象 外経費</th></tr> <tr> <td>3,817</td><td>3,817</td><td>3,053</td><td>764</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費	3,817	3,817	3,053	764	0
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費										
3,817	3,817	3,053	764	0										
資 金 使 途 の 流 れ 点 検 評 価	評 価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考える。 ○予算規模は、仕様書に基づき必要な費用を計上しており、適正な規模であった。 ○費目・使途については、仕様書のとおり実施されているので妥当であったと考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	南風原町						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑨	ふるさと博覧会事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ウ		
担当部署名	経済建設部 産業振興課	事業実施(予定)年度	令和4～令和12年度	沖縄振興基本方針該当箇所	多彩かつ質の高い観光の推進		
事業内容	ふるさと博覧会を開催し町の知名度を向上させ観光客の誘客を図る。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		R4年度	R5年度	R6年度		
		(a)当初予算額	9,867		19,520		
		(b)予算現額	8,000		19,525		
		(c)増減額(b-a)	-1,867	0	5	0	
		(d)繰越額	-				
	A. 計(b+d)	8,000	0	19,525	0		
	B. 執行済額	6,926	隔年開催	19,487			
	うち交付金充当額	5,540		15,589			
	次年度繰越額	0		0			
	執行率(%) (B/A)	86.6%	#VALUE!	99.8%	#DIV/0!		
予算の状況の説明	隔年毎に「ふるさと博覧会」を開催しているが、令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響により開催規模の縮小を余儀なくされたが、令和6年度は通常開催と同規模で開催でき、適正に予算執行することができた。						
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R4年度	R5年度	R6年度		
	ふるさと博覧会開催の支援	目 標	(開催の支援)	()	(開催の支援)		
		実 績	開催の支援		開催の支援		
達成状況説明	前回の開催についてはコロナ禍の影響で規模縮小をしていたが、令和6年度は通常開催と同規模の開催に向け、4月から事業者との調整や出演者募集等ふるさと博覧会開催の支援を行い、11月に2日にわたって予定通りふるさと博覧会を実施することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(R13年度)
	来場客数:9,000人	目 標	()	(9,000人)	()	(9,000人)	(18,000人)
		実 績		4,190人		21,894人	
	進捗状況説明	コロナ禍前と同規模の通常開催にて実施した。当初計画していたプログラム等について予定通り実施することができ、来場客数についても目標を大きく上回った。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	ポスター掲示やポスティングなどイベントの周知を行ったことや出演者や出店業者との調整を行い、来場者が楽しめるまつりの開催に努めたことが目標値達成の要因と考えられる。	今回設定した目標値を大幅に上回ったことから、目標値の検討が必要と考える。 目標値の達成のため、引き続きイベントの周知を図るとともに、会場に足を運びたいくようにまつりの充実を図る。
今後の取り組み方針		
ポスター掲示を遅くとも1か月前までには行い、SNS等を通じて出演者や出店の詳細などまつりに関する最新の情報提供を行う。 引き続き、出店者や出演者との連携を密にし、会場に足を運びたいくよう出店内容やプログラムの充実を図り、町及び町産品の知名度向上及び観光誘客に繋げる。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)																
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">総事業費</th><th rowspan="2">交付対象事業費</th><th colspan="2">交付金充当額</th><th rowspan="2">交付対象外経費</th></tr> <tr> <th>交付金</th><th>市町村負担金</th></tr> <tr> <td>20,504</td><td>19,487</td><td>15,589</td><td>3,898</td><td>1,017</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費	交付金	市町村負担金	20,504	19,487	15,589	3,898	1,017
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費												
		交付金	市町村負担金													
20,504	19,487	15,589	3,898	1,017												
南風原町 19,487千円 報酬・期末手当 勤勉手当・通勤手当 2,330千円 ふるさと博覧会事務1人 (会計年度任用職員) 6,926千円 報酬・職員手当等 共済費 351千円 日本年金機構・ 市町村共済組合 351千円 共済費 補助金 16,806千円 はえばるふるさと 博覧会実行委員会 16,806千円 はえばるふるさと博覧会事業に 関わる支援 ほか、交付対象外経費 1,017千円																
資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明													
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法は、補助の取り扱い基準に基づき執行しており適正であった。 ○予算規模は、本事業の完遂に必要な費用に限られており、適正であった。 ○受益者との負担関係については、補助の取扱い基準に基づき執行しており適正であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。													
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。														
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。														
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。														

市町村名	南風原町							
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	3-① 草木リサイクル事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第4章-1-(1)-イ			
担当部署名	総務部 住民環境課		事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	社会生活における資源循環の推進 Ⅲ-10-(1)		
事業内容	草木廃棄物を利用した「循環のシステム」を構築するため、町内家庭から出る草木を堆肥化し、活用する。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	8,275	10,741	9,140	13,374	12,354	
		(b)予算現額	8,275	10,741	9,140	9,374	10,130	
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	-4,000	-2,224	
		(d)繰越額						
		A. 計(b+d)	8,275	10,741	9,140	9,374	10,130	
	B. 執行済額		10287	7,974	9,201	8,538	9,340	
	うち交付金充当額		8229	6,379	7,360	6,830	7,472	
	次年度繰越額		0	0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		124.3%	74.2%	100.7%	91.1%	92.2%	
予算の状況の説明		草木受入の休止依頼等の理由から当初想定より実績が下回る見込であったため、2,224千円予算を減額し、おおむね事業計画どおり執行ができた。						
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況					
				R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	町内から排出される草木の堆肥化完了		目 標	(堆肥化完了)	(堆肥化完了)	(堆肥化完了)	(堆肥化完了)	
			実 績	堆肥化完了	堆肥化完了	堆肥化完了	堆肥化完了	
達成状況説明		町内の各家庭、地域の清掃活動から排出された草木を収集し、424tを堆肥化することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)			基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	家庭系草木のリサイクル量(堆肥化): 522t		目 標	()	(516t)	(509t)	(522t)	()
			実 績		481t	398t	351t	
	町内一斉清掃等草木のリサイクル量(堆肥化): 104t		目 標	()	(106t)	(105t)	(104t)	()
			実 績		98t	86t	73t	
	進捗状況説明		家庭系草木は、令和6年12月から令和7年2月まで委託事業者の事情により草木受入休止依頼があったため、目標の522tより171t少ない351tのリサイクル量となった。また、町内一斉清掃草木については目標の104tより31t少ない73tをリサイクル量となった。両方とも目標は達成できなかったが、草木のリサイクル・堆肥化により循環型社会の構築につなげることができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	- 実績値は目標値を下回っており、その要因として令和6年12月から令和7年2月まで委託事業者の機械故障により一時的に草木処理受入を休止したことが挙げられる。 - 草木に異物混入が多くなるとリサイクル不可となる場合があり、異物混入の増がリサイクル量の低下に繋がる可能性があることから、異物混入しないよう分別の徹底周知及びチェック体制を強化する必要がある。	- 目標値は過去の平均値から積算しており、実績値との乖離が想定されるが、今後も目標値の積算について精査していく。 - 異物混入を減少させるため、作業員による収集時のチェックや個人による自己搬入時の分別を徹底させる必要がある。
今後の取り組み方針		
今後も継続して町内から発生する草木を堆肥化し、リサイクル量の増を図るとともに、過去の実績を参考に今後の見込みを推計した目標値を設定していくようにする。また、リサイクル量の増加のため、異物混入がないよう分別マナーについても引き続き周知を実施する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
南風原町 9,340千円 役務費 186千円 委託費 9,060千円 使用費 94千円 (株)開邦工業 186千円 街クリーン株式会社 5,806千円 株式会社 美玉開発 3,254千円 那覇市 94千円 計量手数料 家庭系草木堆肥化 町内一斉清掃等草木堆肥化 草木ヤード使用料														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>9,340</td><td>9,340</td><td>7,472</td><td>1,868</td><td>0</td></tr> </table>		総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	9,340	9,340	7,472	1,868	0			
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
9,340	9,340	7,472	1,868	0										
資金の 使途の 点検・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
○	○	支出先の選定方法は妥当か。	○地方自治法施行令第167条の2第1項第2号に基づき随意契約を行っており、妥当である。 ○予算執行率は草木の搬入量の範囲内で適正な量であったため予算規模も適正であった。 ○費用・使途も事業にかかる経費で真に限定的である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	南風原町						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-② 環境保全3R推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第4章-1-(1)-イ		
担当部署名	総務部 住民環境課		事業実施(予定)年度	令和1～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	社会生活における資源循環の推進	
						Ⅲ-10-(1)	
事業内容	本町の一般世帯から回収された資源ごみを細分化したうえで分別作業を実施しリサイクルすることで環境負荷の少ない循環型社会を形成する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	9,382	11,304	13,000	14,196	15,474
		(b)予算現額	9,382	11,304	13,000	14,196	15,474
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d)繰越額					
		A. 計(b+d)	9,382	11,304	13,000	14,196	15,474
	B. 執行済額		9381	11303	13,000	14,196	15,474
	うち交付金充当額		7505	9042	10,399	11,356	12,379
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		事業計画どおりの執行ができた。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	町内から排出される資源ごみを細分化し分別及びリサイクルの完了	目 標	(分別及びリサイクルの完了)	(分別及びリサイクルの完了)	(分別及びリサイクルの完了)	(分別及びリサイクルの完了)	
		実 績	分別及びリサイクルの完了	分別及びリサイクルの完了	分別及びリサイクルの完了	分別及びリサイクルの完了	
達成状況説明	計画どおり資源ごみを細分化し分別し、リサイクルを完了することができた。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (年度)
	資源ごみ(古紙、アルミ、スチール、ビン、ペットボトル、古着)の収集分別量888t	目 標	()	(1,200t)	(1,079t)	(888t)	()
		実 績		870t	888t	844t	
	廃食油の収集分別量 16,000ℓ	目 標	()	(19,500ℓ)	(22,000ℓ)	(16,000ℓ)	()
		実 績		15,833ℓ	11,102ℓ	12,560ℓ	
	進捗状況説明	資源ごみは目標の888tを下回ったが844tを分別することができた。廃食油は目標の16,000ℓを下回ったが12,560ℓを分別することができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・資源ごみ実績値は目標値を下回っているが、廃食油の収集分別量については前年度より実績増となったため、引き続き目標達成に向け取り組む。 ・資源ごみに異物混入が多くなるとリサイクル不可となる場合があり、異物混入の増がリサイクル量の低下に繋がる可能性があることから、異物混入しないよう分別の徹底周知及びチェック体制を強化する必要がある。	・資源ごみのリサイクル量を増加できるよう、住民に対し、資源化できるごみについては資源ごみとして出すよう引き続きごみの出し方の周知に努める。 ・資源ごみに異物混入を減らし、資源化増できるよう、収集時に指導シールを貼り異物混入を防ぐ。 ・目標値は過去の平均値から積算しており、実績値との乖離が想定されるが、今後も目標値の積算について精査していく。
今後の取り組み方針		
今後も継続して町内から排出される資源ごみを分別し、リサイクル量の増加を図るとともに、過去の実績を参考に今後の見込みを推計した目標値を設定していくようにする。また、資源ごみのリサイクル量増加のため、異物混入がないよう分別マナーについても引き続き周知を実施する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>15,474</td><td>15,474</td><td>12,379</td><td>3,095</td><td>0</td></tr> </table> 南風原町 15,474千円 委託費 15,474千円 社会福祉法人育成福祉会 15,474千円 資源ごみ分別業務委託					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	15,474	15,474	12,379	3,095	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
15,474	15,474	12,379	3,095	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○地方自治法施行令第167条の2第1項第3号に基づき随意契約を行っており、妥当である。 ○予算執行率は100%で不用額はなく適正であった。 ○費用・使途も事業にかかる経費のみで真に限定的である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	南風原町						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	放課後児童の居場所づくり支援事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章－2－(2)－イ	
担当部署名	民生部　こども課	事業実施 (予定)年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	子ども・若者の育成支援		
事業内容	安心・安全に子どもを預けることができ、保護者の子育てへの負担感を軽減するため、本町の民間の賃貸住宅等を利用している学童クラブに対して家賃の補助を実施する。また、学童クラブが生活保護世帯及びひとり親家庭等の学童利用者にに対し利用料を減免した場合の補助を実施する。さらに、デジタル技術を活用し学童クラブの質の向上を図り、安心して児童を預ける環境を整備する。						
効果発現年度	■当年度　　　　　□後年度(　　年度)						
実施方法	□直接実施　　■委託　　■補助　　□負担　　□その他(　　)						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	10,627	12,377	12,348	3,615	7,127
		(b)予算現額	11,237	12,377	3,069	3,644	6,872
		(c)増減額(b-a)	610	0	-9,279	29	-255
		(d)繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	11,237	12,377	3,069	3,644	6,872
	B. 執行済額		10,415	11,504	3,040	3,556	6,832
	うち交付金充当額		8,332	9,203	2,431	2,844	5,465
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		92.7%	92.9%	99.1%	97.6%	99.4%
	予算の状況の説明		利用支援補助について当初対象者を134人と見込んだところ、実際の対象者数が131人と計画通りであったが、対象者の退所や要件不適合により対象月数が減となったため、減額を行った。				
	活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況			
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
(1)家賃補助　13か所		目　標	(　12件　)	(　12件　)	(　14件　)	(　13件　)	
		実　績	12件	14件	14件	13件	
(2)生活保護世帯及びひとり親世帯等学童クラブ利用支援補助　130人		目　標	(　97人　)	(　167人　)	(　107人　)	(　130人　)	
		実　績	100人	103人	125人	131人	
(3)学童クラブクラウドシステム活用支援　26か所		目　標	(　－　)	(　－　)	(　－　)	(　26　か所　)	
		実　績	－	－	－	26　か所	
達成状況説明		・家賃補助について、令和4年7月に1か月50,000円から255,000円に上げた補助上限額を継続し、賃借料を負担して民間施設等で運営を行っている13学童クラブに対して、負担軽減のため家賃補助を実施した。 ・学童利用料の減免に対する支援については、令和4年7月から非課税世帯が追加となり、今年度も非課税世帯を含む対象世帯へ1か月5,000円を上限に利用料減免補助を実施し、ほぼ目標通りの対象世帯に補助を行うことができた。 ・クラウドシステム活用支援については、全クラブがシステムを活用し、学童クラブの運営の改善を行った。					
成果目標 (指標) 及び進捗状況		R6成果目標(指標)		基準値 (　年度)	R4年度	R5年度	R6年度
	安心・安全に子どもを預けることができ、子育てへの負担感が軽減されたか、本事業により、就労できた又は就労を継続できたか(80%以上)を含め、対象となる児童の保護者へのアンケートにより本事業のあり方を検証する。	目　標	(　　)	(　80%　)	(　80%　)	(　80%　)	(　　)
		実　績		99%	97%	97%	
	進捗状況説明	学童クラブに対する家賃補助の結果、学童利用者の利用料を減額することができ、保護者の負担軽減に繋がったことや、生活保護世帯やひとり親家庭・非課税世帯への学童利用料の減免を行うことで、生活保護世帯やひとり親家庭・非課税世帯が学童クラブに児童を預けやすくなった。その結果、安心・安全に子どもを預けることができ、保護者アンケートにおいて子育てへの負担感が軽減されたと答えた割合が97%となった。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・利用支援補助において年々対象者数が増加していることより、各学童クラブにおける制度理解が深まり、対象世帯が漏れなく減免を受けられる環境が整ってきたと考えられる。保護者アンケートにおいても目標を上回る結果を維持できている。 ・令和6年度より新たに開始した学童クラブの業務効率化クラウドサービス活用支援において、目標とした全クラブがシステムを活用したが、これまでの業務をシステムに置き換えることに不慣れな面が見られたが、概ね好評であり、学童クラブのさらなる運営支援につながり保護者アンケートの満足度につながったと考える。	・既存の学童クラブにおける利用支援補助や家賃補助による利用料減額は今後も継続して実施できるよう、状況をつと確認する。 ・新設の学童クラブに対しては制度を適切に周知し、保護者支援を適切に実施していただくことで目標達成を継続する。 ・クラウドシステム活用については、実務を行う学童クラブ側の意見を聴取し、より良い環境整備に努め、保護者満足度の好評に繋がるよう取り組む。
今後の取り組み方針		
学童クラブに対し、相談対応や困り感の聴取などの支援を手厚く行うことで、学童保育の質が向上し、学童クラブの利用促進につながるとともに、保護者の子育て負担の軽減につながるよう引き続き取り組んでいく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
南風原町 6,832千円 補助金 3,645千円 委託料 3,187千円 家賃補助 13か所(1,980千円) ・みやび学童クラブ ・よなは学童クラブ ・北丘学童クラブ ・学童クラブVI-VA ・学童クラブVI-VAぶらす ・キッズクラブ カナカナ ・ドルチェ学童クラブ ・第2ドルチェ学童クラブ ・翔南学童クラブ ・竹の子学童クラブ 生活保護世帯及びひとり親家庭等利用料補助 131人分 (1,665千円) ・みやび学童クラブ ・よなは学童クラブ ・よなは第2学童クラブ ・北丘学童クラブ ・第2北丘学童クラブ ・学童クラブVI-VA ・学童クラブVI-VAぶらす ・こもれび学童クラブ ・キッズクラブカナカナ ・キッズクラブLinkリンク ・ドルチェ学童クラブ ・第2ドルチェ学童クラブ ・正道スマイリークラブ ・いこい学童クラブ ・いこい第2学童クラブ ・翔南学童クラブ ・みつわ学童クラブ ・学童クラブわんぱく家 ・学童クラブうーまく家 ・竹の子学童クラブ ・第二竹の子学童クラブ ・津嘉山学童クラブ ・津嘉山うむさ学童クラブ 株式会社 グラシアス沖縄 3,187千円 総事業費 29,608 交付対象事業費 6,832 交付金充当額 5,465 市町村負担金 1,367 交付対象外経費 22,776 学童クラブの家賃に係る経費の補助 生活保護世帯及びひとり親家庭等の学童クラブ利用料減免に係る補助 ほか、交付対象外経費 22,776千円 学童クラブ業務効率化クラウドシステム提供				
資金の流 れ、費 目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○実績等を勘案した上で補助事業者(学童クラブ)を決定しており、妥当であったと考える。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○事業達成に必要な分の金額を支出し、妥当な額で実施している。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○補助金の上限を超える金額はクラブ負担であり、妥当であったと考える。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○事業目的達成の観点から必要なもののなか等について額の確定時に支出等に関する書類や完了検査により確認、適正であった。	

市町村名	南風原町						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-②	認可外保育園支援事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章－2－(2)－ア		
担当部署名	民生部　こども課	事業実施 (予定)年度	令和1～令和6年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	子ども・子育て支援の充実		
事業内容	認可外保育施設の保育の充実及び利用児童の福祉向上を図るため、町内認可外保育施設に対し、運営費、歯科検診、傷害保険に係る費用の一部補助を行う。また、町外認可外保育施設を利用する本町在住児童保護者に対し、保育料軽減を目的として助成を行う。						
効果発現年度	■当年度　　□後年度(　　年度)						
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他(　　)						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	3,941	2,904	1,458	807	625
		(b)予算現額	3,941	1,806	646	609	408
		(c)増減額(b-a)	0	-1,098	-812	-198	-217
		(d)繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	3,941	1,806	646	609	408
	B. 執行済額		2,152	1,336	425	447	312
	うち交付金充当額		1,721	1,069	339	357	249
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		54.6%	74.0%	65.8%	73.4%	76.5%
予算の状況の説明		当初、補助対象児童数を延べ436人として見込んでいたが、待機児童の減少及び対象施設の年度末閉所決定による入所者の減により実績児童数が延べ196人に下回り、不用額96千円が発生した。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	認可外保育施設への補助 1園 1. 運営費補助 2. 傷害保険補助 3. 歯科検診補助	目 標	(5園)	(3園)	(1園)	(1園)	
		実 績	3園	3園	1園	1園	
	町外認可外保育施設に通う町内在住者の児童の保護者への助成 6人	目 標	(31人)	(31人)	(13人)	(6人)	
実 績		22人	13人	14人	5人		
達成状況説明	・町内認可外保育施設1園に運営費として本町在住児童1人あたり月1,500円の補助を実施した。 ・町外認可外保育施設に通う本町在住児童5人の保護者に1人あたり月1,500円の助成を実施した。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (年度)
	園児の保護者に対し、保育の質が向上したか(80%以上)を含め、アンケート調査を実施し、本事業のあり方について検証する。	目 標	()	(80%)	(80%)	(80%)	()
		実 績		90.9%	80.0%	100.0%	
	【参考指標】 園児の保護者に対し、助成により保護者負担が軽減されたか(80%以上)を含め、アンケート調査を実施し、本事業のあり方について検証する。	目 標	()	(80%)	(80%)	(80%)	()
		実 績		80.0%	100.0%	66.0%	
進捗状況説明	当事業の対象児童保護者に対しアンケートを実施し、施設補助においては目標以上の評価を得ることができたが、保護者への助成においては目標値に届かなかった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・当事業を広報誌・ホームページ及び施設からの案内により広く周知したが、目標人数については予定より下回った。 ・保護者の満足度については、物価高の影響もあり、現状の助成額では少ないと考える声があった。 ・町内認可保育施設及び企業主導型保育施設の増加に伴い、待機児童が減少されたため、令和6年度末で対象の認可外保育施設が閉所となった。	・待機児童の受け皿としての充実については目標を達成しているため、改善の必要はないものと考えられるが、物価高への支援についてはその他の方法で実施を検討する必要があると叶える。
今後の取り組み方針		
・本町においては、認可保育施設や企業主導型保育施設等により、未就学児保育の受け皿が充実しており、年度当初の待機児童は解消されたため、概ね事業の目的は達成したと考える。子育て支援については、今後国等の動向や社会情勢に注視しながら様々な角度から取組をすすめる。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>312</td><td>312</td><td>249</td><td>63</td><td>0</td></tr> </tbody> </table> 南風原町 312千円 補助金 312千円 認可外保育施設への補助 (1施設) なないろ乳幼児園 277.5千円 1 運営費補助 268.5千円 2 歯科検診補助 9千円 認可外保育施設への運営費、歯科検診の補助 認可外保育児童助成金 (5人) 34.5千円 町外認可外保育施設に通う園児の保護者への補助					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	312	312	249	63	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
312	312	249	63	0										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○要綱に基づいての決定しており、妥当であると考え。 ○事業達成に必要な金額を支出し、妥当な額であると考え。 ○上限を超える金額は施設又は保護者の負担になるので妥当であると考え。 ○事業目的達成の観点から必要なもののなか等について、額の確定時の支出等に関する書類により確認し適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	南風原町						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-③	輸入感染症対策推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-2-(3)-エ		
担当部署名	民生部 国保年金課	事業実施 (予定)年度	令和2～令和13年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	感染症に備えた保健衛生、医療提供体制の拡充・強化		
事業内容	麻しん・風しんに感染した観光客が来県した場合でも当該感染症の蔓延を予防し、沖縄観光や経済等への影響を最小限に抑えるため、麻しん・風しん(MR)予防接種の受けやすい体制の構築により接種率の向上を図る。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	11,945	12,298	12,984	13,008	13,008
		(b)予算現額	12,858	12,984	12,984	12,832	11,459
		(c)増減額(b-a)	913	686	0	-176	-1,549
		(d)繰越額					
		A.計(b+d)	12,858	12,984	12,984	12,832	11,459
	B.執行済額		11,186	10,953	9,525	9,720	8,123
	うち交付金充当額		8,949	8,762	7,620	7,776	6,499
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		87.0%	84.4%	73.4%	75.7%	70.9%
予算の状況の説明		事業期間において、1,100件の接種を見込んでいたが、700件の接種となった。予算について第4回変更で減額したが、70.9%の執行となった。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
				R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	MRⅠ期接種目標率 95%	目 標	(95%)	(95%)	(95%)	(95%)	
		実 績	91.8%	90.2%	97.2%	82.3%	
	MRⅡ期接種目標率 95%	目 標	(95%)	(95%)	(95%)	(95%)	
		実 績	84.2%	81.3%	88.7%	75.7%	
達成状況説明	・MRⅠ期については、475人の対象者(令和6年10月1日基準日)に対し391人の接種者(令和6年度)があり、達成率は82.3%の接種に止まり、目標未達となった。 ・MRⅡ期については、町のホームページの掲載や教育委員会の実施する就学前健診時に未接種者への接種勧奨を教育委員会と連携し行ったが、536人の対象者のうち406人(令和6年度)の接種に止まり、達成率は75.7%で目標未達となった。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (年度)
	外国人観光客受入に起因する麻しん・風しん 集団感染の発生件数 0件	目 標	()	(0件)	(0件)	(0件)	()
		実 績		0件	0件	0件	
	進捗状況説明	外国人観光客受入に起因する麻しん・風しんの感染は確認されず、目標を達成した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	成果目標は達成できたが、活動目標である接種率を向上させないと後年度に影響が出る可能性があるため接種率の向上を図る必要がある。令和6年度については例年と比較して接種率が低い、これはMRワクチンの一時的な供給不足が影響したと考えられる。	今後も継続した接種率向上を図る取り組みの検討が必要である。
今後の取り組み方針		
MRⅠ期については、今後も継続して1歳6か月健診の際に、母子手帳を確認して未接種の方への接種勧奨に取り組む。MRⅡ期については、就学前健診時の接種勧奨を教育委員会と連携し取り組む。その他、今後も町ホームページや広報、SNS等による予防接種の広報に努め、接種率向上に努める。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>8,130</td><td>8,123</td><td>6,499</td><td>1,624</td><td>7</td></tr> </table> 南風原町 8,123千円 → 委託費 8,123千円 → (一社)南部地区医師会 8,123千円 (予防接種業務委託) (ほか、交付対象外経費 7千円)					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	8,130	8,123	6,499	1,624	7
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
8,130	8,123	6,499	1,624	7										
資金使途の流れ・点検・評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は予防接種実施医療機関をまとめている、南部地区医師会と地方自治法施行令167条の2第1項第2号に基づく随意契約となっており妥当である。 ○平均78.8%の接種率があり、予算規模は適正である。 ○使途は予防接種のみと限定されている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	南風原町						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-①	陸軍病院壕公開活用事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章－1－(4)－ア	
担当部課名	教育部 生涯学習文化課 経済建設部 産業振興課	事業実施 (予定)年度	平成24～令和13年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	沖縄文化の継承・発展・普及	
事業内容	沖縄陸軍病院南風原壕群の保存・活用を行うとともに、壕群を訪れる見学者へのガイド案内を実施することで、南風原町の歴史継承及び利用の誘客を図る。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	7,690	7,979	8,090	10,850	10,349
		(b)予算現額	5,690	7,979	8,125	19,020	11,005
		(c)増減額(b-a)	-2,000	0	35	8,170	656
		(d)繰越額					
		A. 計(b+d)	5,690	7,979	8,125	19,020	11,005
	B. 執行済額		5,159	4,433	6,922	17,748	9,397
	うち交付金充当額		4,127	3,546	5,537	14,198	7,517
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		90.7%	55.6%	85.2%	93.3%	85.4%
予算の状況の説明		不用額1,608千円の主だったものとしては、壕公開活用事業委託の契約変更等に伴う770千円の減額及び収益(陸軍病院壕入壕料)について会計年度任用職員報酬から差引き、726千円を交付対象外経費にしたことによる。成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考える。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	目標		(308日)	(308日)	(309日)	(308日)	
	実績		207日	307日	308日	308日	
達成状況説明		令和6年6月14日(午後)、6月15日(午前)は大雨災害警報発令のため休壕したが、目標の開壕日数を達成した。					
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値 (R1年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (R13年度)
	目標		(9,028人)	(9,000人)	(8,000人)	(8,000人)	(10,000人)
	実績			4,427人	6,363人	7,684人	
	進捗状況説明		・目標値の達成はできなかった。 ・見学者数は、コロナ禍以前(R1年度)の約85%にまで回復している。 ・個人見学者数はコロナ禍以前とほぼ同等(約95%)にまで回復したが、団体見学者数はコロナ禍以前と比べ約70%の回復状況である。				

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・個人見学者数は、コロナ禍以前とほぼ同等であるため、団体見学者数を増加させることが課題である。 ・見学者数が回復していることで、ガイド数を増やす必要がある。 ・統計データは作成していないが、外国人見学者が増加しており、外国語の案内対応が課題となっている。	・見学団体が見学の検討を行いやすいよう、見学プログラムの周知方法の改善が必要である。 ・令和6年度末にガイド養成講座を開催したが、ガイド数に不足がないか注視する必要がある。 ・英語ガイドは2人しかいないため、英語が話せないガイドでも案内ができるよう、案内方法の改善が必要である。
今後の取り組み方針		
・令和7年度は、戦後80年の節目の年であり、見学者数が大きく増加する可能性がある。予約状況やガイド体制を注視して、必要に応じてガイド養成講座を開催し、受け入れ体制の改善を行う。また、増加する外国人見学者の英語案内ができるよう、パネルの作成や案内方法の改善を図る。 ・年間見学者数をコロナ禍以前に回復させることを目標とする。 参考: 令和元年度 9,028人		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金 充当額</th><th>市町村 負担金</th><th>交付対象 外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10,122</td><td>9,397</td><td>7,517</td><td>1,880</td><td>725</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費	10,122	9,397	7,517	1,880	725
総事業費	交付対象事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費										
10,122	9,397	7,517	1,880	725										
南風原町 9,397千円 報酬・期末手当 勤労手当・交通手当 陸軍病院壕管理員2人 3,406千円 (会計年度任用職員 報酬・手当等) 共済費 572千円 日本年金機構 ・市町村共済組合 572千円 (共済費) 委託料 572千円 株式会社 南城技術開発 264千円 (20号壕変位等観測業務委託) 有限会社 香りのデザイン研究所 106千円 (壕内臭気再現業務委託) 一般社団法人 南風原町観光協会 5,049千円 (陸軍病院壕群公開活用事業委託) ほか、 交付対象外経費 725千円 ()														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託料について、町の観光資源を活用する組織である南風原町観光協会と契約を行うなど、随意契約に際してはこれまでの実績と知識を勘案して選定した業者を含める等して行っている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額が発生したが、見学収入により725千円を対象外経費としたものが主であり、予算規模そのものは事業内容に見合った規模である。											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途について、事業目的の観点から必要なものを額の確定時において支出等に関する書類により確認・精査し、適正であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

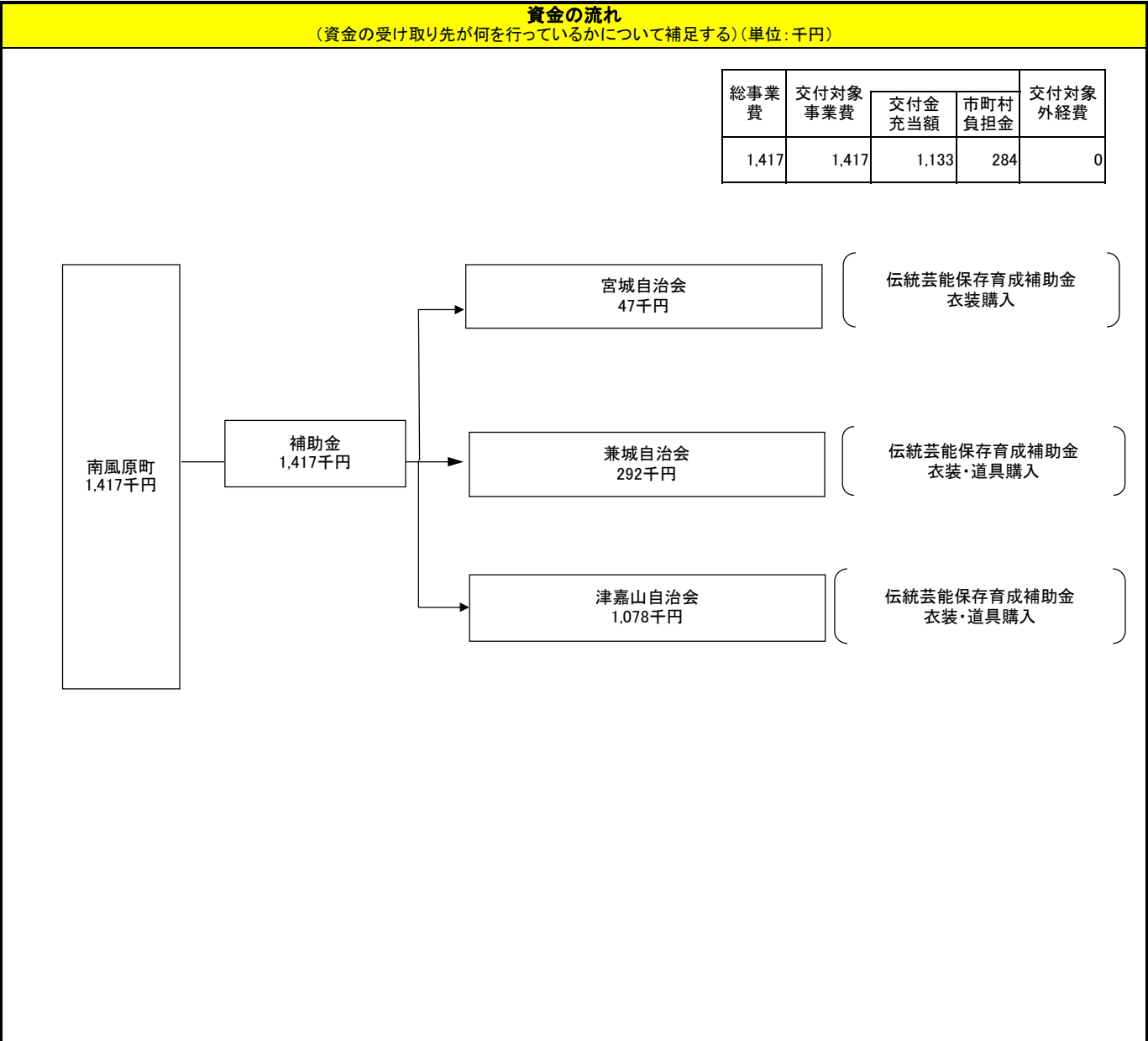
市町村名	南風原町						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-②	子ども平和学習交流事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－4－(1)－イ	
担当部課名	教育部 生涯学習文化課	事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄戦の実相・教訓の次世代継承		
事業内容	あらゆる社会の出来事に目を向け、自分のこととして社会をより深く理解し、平和を築く人材育成を目的として、町内小学校6年生の子どもたちが、戦争と平和、差別や人権をテーマに、仲間とともに諸施設での研修や現地の人々との交流を重ねながら学習を深め自分の考えや意見を交換し、視野を広げ関心を高める。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	1,342	1,137	1,137	1,215	1,406
		(b)予算現額	482	321	1,127	878	932
		(c)増減額(b-a)	-860	-816	-10	-337	-474
		(d)繰越額					
		A. 計(b+d)	482	321	1,127	878	932
	B. 執行済額		300	212	959	877	931
		うち交付金充当額	240	169	773	701	744
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		62.2%	66.0%	85.1%	99.9%	99.9%
予算の状況の説明	474千円の減額は、主に負担金・補助金の実績額によるものであり、計画通り事業執行できた。						
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	子ども平和学習交流事業参加者数(8人)	目 標	(14人)	(8人)	(8人)	(8人)	
		実 績	12人	8人	8人	8人	
	・県内研修(事前学習)及び県外研修を実施	目 標	(－)	(－)	(－)	(実施)	
		実 績	－	－	－	実施	
	県内研修(事前学習)及び県外研修実施後の報告会を開催し報告書にまとめる。	目 標	(報告会を開催)	(報告会を開催)	(報告会を開催)	(研修・報告会の実施及び報告書の刊行)	
		実 績	参加児童の発表を録画し配信した。	報告会を実施	報告会を実施	研修・報告会を実施及び報告書を刊行	
	達成状況説明	町内各小学校から6年生8人を学校からの推薦を受けて実施した。また、6月から県内研修(事前学習)を開始し、8月末に4泊5日の県外研修を実施した。10月に関係者・保護者へ学習の成果を発表する報告会を開催し、3月に報告書を刊行できた。					
	成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度
参加児童の保護者へのアンケートにおいて、「子どもにより変化がみられた」の回答:90%		目 標	()	(90%以上)	(90%以上)	(90%以上)	()
		実 績		100%	100%	100%	
参加児童の保護者へのアンケートにおいて、「参加後、平和や戦争、人権や差別等について、社会の問題に興味がわいた児童」の回答:90%		目 標	()	(90%以上)	(90%以上)	(90%以上)	()
		実 績		100%	100%	100%	
進捗状況説明		コロナウイルスの影響により県外研修ができなかった令和3年度と比べ、県外研修を実施した令和4年度から今年度までアンケート結果について、100%の達成が続いている。 保護者からの回答では「昨今の海外での戦争や各地域での慰霊祭の様子がニュースで流れると観ている」、「一方向からではなく、別の角度からも物事を考えているのが伺える」との意見があった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・研修(特に県外研修)を通して児童の成長を感じていることがあり、今後も同様な現地での交流・体験する内容を継続していく。 ・成果目標は達成できたが、県内外での体験者の高齢化により、直接伺える場が減少することが考えられるため、新たな学習方法の検討も必要となる。	・現地の方々や同じ世代の児童との交流があることで、本児童達が多角的な考えを創ることができることから、交流の場を残しつつ、児童の主体的な学習方法も検討・模索していく。
今後の取り組み方針		
・戦後80年が経過し、戦争体験者である方々が減少している中で平和学習参加児童と同世代であった頃の体験を伺うこと、県外の現在の同世代との交流の場や南風原町内外の戦跡を巡り・体験することで、子どもたちが刺激を受け、気づきや視野を広げる事業に取り組みたい。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
南風原町 931千円 報償費 74千円 旅費 108千円 補助金 749千円 事前研修・県外研修講師 74千円 職員 特別旅費 108千円 児童8人 研修費補助金 654千円 引率教諭1人 旅費補助金 95千円 ほか、 交付対象外経費 講師・ガイド謝礼金 引率職員1人 特別旅費 子ども平和学習交流事業 児童旅費、研修費等 子ども平和学習交流事業 引率教諭旅費等				
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
953	931	744	187	22
評価	点 検 項 目	評価に関する説明		
資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	○ 支出先の選定方法は妥当か。	○事業に必要な旅費、現地経費を見積もり等を精査し支出しており、参加者(補助金)の選定は学校長推薦により行っていることから、支出先の選定については適正であった。 ○事業達成に必要な金額を支出し妥当な額で実施している。 ○受益者との負担関係については、南風原町子ども平和学習交流事業実施要綱に基づき自己負担を徴収しており妥当である。 ○費目・使途が事業目的である、研修先への旅費、交流に必要な経費として目的に即している。		
	○ 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。			
	○ 受益者との負担関係は妥当であるか。			
	○ 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。			

市町村名	南風原町							
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	5-③	伝統芸能保存育成事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章－1－(4)－ア			
担当部署名	教育部 生涯学習文化課	事業実施 (予定)年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	沖縄文化の継承・発展・普及			
事業内容	本町の歴史・文化・伝統を保存し後世に継承し、地域振興に繋げていくことを目的とし、伝統芸能保持団体である各自治会への道具・衣装・楽器・面玩具等の購入や修繕に対し補助を行う。							
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(R7年度)							
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	449			937	1,589	
		(b)予算現額	449			925	1,479	
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	-12	-110	
		(d)繰越額						
		A. 計(b+d)	449	0	0	925	1,479	
	B. 執行済額		449			925	1,417	
	うち交付金充当額		359			739	1,133	
	次年度繰越額		0			0	0	
	執行率(%) (B/A)		100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	100.0%	95.8%	
予算の状況の説明		町内の3伝統芸能保有団体へ補助金を支援したが、不用額62千円については実績額によるものである。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況					
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		
	伝統芸能保存育成補助(3件)の完了		目 標	()	()	(2件)	(3件)	
			実 績			2件	3件	
達成状況説明		町内の伝統芸能継承を推進するため、3自治会へ道具・衣装の購入・修繕に対する補助金を交付した。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (年度)	
	補助団体による伝統芸能上演回数(12回)		目 標	()	()	(34回)	(12回)	()
			実 績		4回			
	進捗状況説明		補助を受けた3団体ともに着手時期～納品が遅れ、今年内の活用ができなかったため、次年度検証する。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・活動目標件数は達成したが、成果目標である伝統芸能上映回数については当初予定より完了が遅れたため、検証ができなかった。道具等の修繕やオーダーメイド品の購入等にかかるものは、各伝統芸能保有団体(自治会)の行事日程と物品の納期を検討するよう、調整していく必要がある。 ・補助団体による伝統芸能上演回数を増やすため、活用場の創出が必要である。	・補助金交付スケジュール及び活用時期について、補助団体と密な調整を行い、スケジュールに遅れが生じないよう取り組む。 ・補助団体が伝統芸能等を保存・後世に継承するためにも伝統芸能披露の場を増やし、年中行事以外にも道具・衣装の活用場の模索していく。
今後の取り組み方針		
・文化・芸能の保存及び継承の観点から、町内外の他地域の取り組みの情報収集し、上演の機会を多く確保するよう、地域と調整及び指導していく。		



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は「南風原町伝統芸能保存育成補助金交付要領」に基づき、自治会(保存会)に限られるため妥当であるとする。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は本事業の遂行に限られた経費となっており、適正である。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○伝統芸能は町が選定し保護育成し活用すべきであるとの認識で、受益者負担無しでの実施で妥当であるとする。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について確認し、適正であった。

市町村名	南風原町					
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	5-④	資料の公開活用事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－1－(4)－ア	
担当部課名	教育部 生涯学習文化課	事業実施(予定)年度	平成24～令和11年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄文化の継承・発展・普及	
事業内容	町独自の文化・歴史・伝統を後世へ継承し、発信していくために、南風原文化センターの収蔵資料をデータベース化、デジタルアーカイブとして公開することで、沖縄および南風原の歴史学習に活かすとともに、歴史文化を後世に継承し、地域振興につなげる。					
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(R7年度)					
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a)当初予算額	1,009	4,873		
		(b)予算現額	1,069	4,915		
		(c)増減額(b-a)	60	42	0	
		(d)繰越額				
		A. 計(b+d)	1,069	4,915	0	0
	B. 執行済額		1,282	4,848		
	うち交付金充当額		1,025	3,878		
	次年度繰越額					
	執行率(%) (B/A)		119.9%	98.6%	#DIV/0!	#DIV/0!
	予算の状況の説明		当初予定していたシステム導入に時間を要し、使用料については活用がなかったが、おおむね計画通り事業執行できた。			
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況			
	・写真・レコード資料のデータ整理作業	目 標	()	(データ整理)	()	()
		実 績		データ整理実施		
	・資料の公開フォーマットに合わせたデータ整理	目 標	()	(データ整理)	()	()
		実 績		データ整理実施		
	・資料公開システムの導入	目 標	()	(システム導入)	()	()
		実 績		システム導入完了		
	【参考指標】 民具、文書資料等整理500点	目 標	(500点)	()	()	()
		実 績	585点			
	達成状況説明	・写真・レコード資料約7,000点のデータベース整理及び公開システムの導入を行った。				

R6成果目標(指標)			基準値 (R2年度)	R5年度	R6年度		目標値 (R7年度)
成果目標 (指標) 及び進捗状況	・写真、レコード資料整理5,000点	目 標	()	()	(5,000点)	(—)	()
		実 績			5,258点		
	・染織資料1,100点、南風原町史掲載写真資料550点の公開のフォーマットに合わせたデータ整理	目 標	()	()	(染織1,100点 写真550点)	(—)	()
		実 績			染織1,210点 写真556点		
	・資料公開システム導入	目 標	()	()	(システム導 入)	(—)	()
		実 績			システム導入		
	【R7年度成果目標】 南風風原文化センター来館者数(壕見学者含む)を合計28,000人とする。	目 標	(3,000人)	(—)	(—)	()	(28,000人)
		実 績		10,465人	21,335人		
	【参考指標】 資料約500点のデータベース化完了	目 標	()	(500点完了)	()	()	()
		実 績		585点完了			
	進 捗 状 況 説 明	資料整理及び公開フォーマットに合わせたデータ整理について、目標どおり実施できた。また、入館者数において、基準値の令和2年度と比較すると7倍、令和5年度と比較すると2倍となっており、コロナ禍以前の令和元年の21,670人とほぼ同数となっている。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・現在、データベース化の実施状況は計画通りに進行している。 ・今後、図書資料等のデータのスムーズなデータベースへの取込み方法等の検討が必要。 ・入館者数について、コロナ禍の休館等の影響について徐々に回復しているものの、令和7年度目標の来館者数に達していない。引き続き、資料公開システム活用したデジタルアーカイブで資料を公開し、関心を持ってもらい、来館者数増に繋げる必要がある。	・他先進自治体の作業工程等の情報収集を行い、データベース整理に時間を要する媒体の整理効率化に努める。 ・来館者数を増やすため、デジタルアーカイブの効果的な公開・活用を検討し、ホームページやSNS等で情報発信を強化する。
今後の取り組み方針		
・データベースへの入力・整理作業が終了したものから順次、資料公開システムへ移行してWEB公開を進めていく。また、デジタルアーカイブについてはその公開・周知を強化し、来館者数増に繋げる。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
南風原町 4,848千円 報酬・期末手当 勤勉手当・交通手当 資料整理員 1人 3,134千円 〔 会計年度任用職員 報酬・手当等 〕 共済費 427千円 日本年金機構 ・市町村共済組合 427千円 〔 共済費 〕 委託料 1,287千円 株式会社 Nansei 1,287千円 〔 資料公開システム導入委託 〕														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金 充当額</th><th>市町村 負担金</th><th>交付対象 外経費</th></tr> <tr> <td>4,848</td><td>4,848</td><td>3,878</td><td>970</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費	4,848	4,848	3,878	970	0
総事業費	交付対象事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費										
4,848	4,848	3,878	970	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 費目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○会計年度任用職員について、書類選考・面接を行い、経験等を考慮して採用しており、委託については指名競争入札を行っており、妥当であった。 ○事業内容に基づく事業執行を行い、支出先の選定についても妥当であったことから、予算規模は、適正であったと考える。 ○費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されており、適正であったと考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	南風原町						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-⑤	南風原町海外移住者子弟研修生受入事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章－4－(2)－ア		
担当部課名	教育部 生涯学習文化課	事業実施 (予定)年度	平成24～令和12年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	交流基盤としてのウチナーネットワークの継承・発展		
事業内容	南風原町出身の海外移住者子弟を研修生として受け入れ、ルーツを辿ることや、移民史や相互の文化歴史を学習する研修を実施する。また、滞在中には学校等で研修生の自国紹介の講義を行い、町内の児童生徒の国際意識を高めるとともに、交流を深める。帰国後は自国の町人会や県人会と連携し、ネットワーク構築と交流を推進するため南風原町とのパイプ役として活動する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額			740		1,262
		(b)予算現額			740		745
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	-517
		(d)繰越額					
		A. 計(b+d)	0	0	740	0	745
	B. 執行済額				705		724
	うち交付金充当額				563		579
	次年度繰越額		事業中止	事業中止		隔年実施	
	執行率(%) (B/A)		#DIV/0!	#DIV/0!	95.3%	#DIV/0!	97.2%
予算の状況の説明		南風原町出身の海外移住者子弟を研修生として隔年毎に受け入れる事業であるが、令和6年度はアルゼンチンからの研修生1人を受け入れた。渡航費及び滞在中の研修費等の実績に応じて予算減額し、計画どおり事業執行ができた。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	・受け入れ国の数1か国(アルゼンチン) ・研修生(1人)の受け入れ完了	目 標	()	(1か国1人)	()	(1か国1人)	
		実 績		ブラジル1人		アルゼンチン1人	
	・研修成果の報告会を開催	目 標	()	(報告会の開催)	()	(報告会の開催)	
		実 績		R4.11.21実施		R6.11.28実施	
達成 状況 説明	・南風原町字兼城にルーツをもつ研修生を1か国(アルゼンチン)から1人、約1か月受け入れた。令和6年10月30日から12月6日の研修期間において沖縄や南風原町の歴史文化を学ぶ研修を実施した。 ・親戚との親睦会や県内めぐり、町内小学校との交流など、ルーツを辿ることや、相互の文化歴史を学習及び交流を深め、11月28日には研修報告激励会を実施し、研修の成果を報告した。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (年度)
	研修後、研修生・ホームステイ先・研修関係者に対してアンケートを実施 ①研修終了後、移民史に興味があった:80%以上	目 標	()	(80%)	()	(80%)	()
		実 績		100%		100%	
	②日本語をさらに習得したい:80%以上	目 標	()	(80%)	()	(80%)	()
		実 績		100%		100%	
	③日本や沖縄の文化や歴史に以前より関心を持つようになった:80%以上	目 標	()	(80%)	()	(80%)	()
		実 績		100%		100%	
	④海外の子弟と交流ができてとても良かった:80%以上	目 標	()	(80%)	()	(80%)	()
		実 績		100%		100%	
	⑤ホストファミリーとしてまた研修生を受け入れたい:70%以上	目 標	()	(70%)	()	(70%)	()
実 績			—		—		
進 捗 状 況 説 明	研修期間において研修生自身がルーツである沖縄や南風原町の文化に触れることができ、帰国後、自国の県人会や研修生OBと連携し、ネットワーク構築と交流を推進するため南風原町とのパイプ役として活動するきっかけとなったと考える。また、県系人との交流により学校等からは児童の国際理解教育及び移民の歴史教育を推進するために良い機会であったと感想があった。⑤については、今回はホストファミリーではなく民宿に宿泊したため評価しない。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・県系人(アルゼンチン)の研修生について、英語でのやりとりが可能であり、アルゼンチン出国前の手続き等に関してスムーズであったことが成果目標の達成に繋がった要因の一つである。 ・町内在住の親戚がホストファミリーとなり受け入れることについては実施ができなかったが、会食を一緒にする等、研修生と共有する時間を率先して設けており、事業の満足度達成に繋がったが、今後は親戚つながりの状況等での受入体制が難しくなることも想定される。 ・研修生が自己のルーツである南風原町を知り、本町で交流したことで、帰国後ネットワーク構築と交流を推進するため南風原町とのパイプ役として活動することが期待できる。	・母国語のみで英語や日本語でのやり取りが不可の場合や受入側(事務局)の職員が替わっても支障が無いような手続き等のスキームを整備しておく必要がある。 ・沖縄県から各国への移民の歴史について古い国だと125年が経過していることから、沖縄県とのつながりについて希薄化しないよう、移民先の町人会・県人会と連携等ネットワークを継続して推進するパイプ役として研修生が活躍できるよう、町内関係者及び研修生らとの関係構築を継続して行う必要がある。
今後の取り組み方針		
・ウチナーネットワークの継承・発展のために、研修生の受け入れのみならず、研修生との交流を通して町内の児童生徒への移民に関する教育普及に努めていく。 ・過去に行った派遣事業参加者や国際交流事業、ウチナーンチュ大会の交流の場において、オンライン等も含め引き続きコミュニケーションをとり、関係性を継続していく。 ・移民地の子弟や町人会と南風原町を結ぶ人材育成が目的の事業であるため、出身国の組織継続ができるよう、関係継続を念頭に置いた取り組みを展開したい。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>744</td><td>724</td><td>579</td><td>145</td><td>20</td></tr> </tbody> </table> 南風原町 744千円 補助金 744千円 海外移住者子弟研修生 (アルゼンチン1人) 744千円 渡航費、滞在費、研修費等 ほか、交付対象外経費 20千円					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	744	724	579	145	20
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
744	724	579	145	20										
資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は南風原町出身の海外移住者子弟のみとしており、支出先として妥当である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○事業達成に必要な分の金額のみを支出し、妥当な額で実施している。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者との負担関係については、実施要綱に基づき自己負担を支出しており妥当である。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されており、適正であったと考える。											

市町村名	南風原町							
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	6-① 長寿県復活食の応援事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第4章－2－(3)－ア			
担当部署名	民生部 国保年金課		事業実施(予定)年度	平成25～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	「健康・長寿おきなわ」の復活		
事業内容	将来の生活習慣病の予防に向け、町内の小学校5年生及び中学校2年生を対象に生活習慣病予防健診及び健診結果説明会を実施する。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	4,944	4,945	4,440	5,272	4,881	
		(b)予算現額	2,320	2,669	2,954	2,729	2,961	
		(c)増減額(b-a)	-2,624	-2,276	-1,486	-2,543	-1,920	
		(d)繰越額	0	0	0	0	0	
		A. 計(b+d)	2,320	2,669	2,954	2,729	2,961	
	B. 執行済額		2,241	2,608	2,917	2,728	2,862	
	うち交付金充当額		1,793	2,086	2,333	2,181	2,289	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		96.6%	97.7%	98.7%	100.0%	96.7%	
予算の状況の説明		学童期の生活習慣病予防健診受診者が当初の見込みを下回ったため、補正により1,920千円の予算減額を行った。						
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況					
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		
	生活習慣病予防健診の実施	目標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)		
		実績	実施	実施	実施	実施		
	健診結果説明会の実施	目標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)		
実績		中止	中止	実施	実施			
達成状況説明	学童期における生活習慣病予防健診を小学5年生242人、中学2年生150人に実施することができた。生活習慣病予防健診後は健診結果説明会を開催し、親子で健診結果からの生活習慣を振り返るための学習会を実施できた。							
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)	
	中学2年生の継続受診率60%(令和3年度小学5年生で受診した者のうち、中学2年生でどれだけ健診を継続して受診できたか)		目標	()	(60%)	(60%)	(60%)	()
			実績		78.1%	61.5%	67.3%	
	進捗状況説明	令和3年度に小学5年生で受診した者のうち、令和6年度も継続受診した中学2年生の割合は67.3%であった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・本事業の目的は生活習慣病予防健診の結果を知ることでの生活の振り返りを行うことである。生活習慣病予防健診後の親子での集団健診結果説明会を継続実施し、親子で生活を振り返るような保健指導を実施する。 ・生活習慣病予防健診受診率向上のために、令和6年度から集団健診に加え個別医療機関でも受診できるようにしたが健診受診率は35%と横ばい傾向であった。個別健診は受診しやすい時期として夏休み期間中を設定しているが、個別健診の実施初年度であったことから契約事務に遅れが生じ、受診期間が短くなったことが健診受診率が伸びなかった要因であると考えられる。 ・成果目標の継続受診率は令和5年度と比べ67.3%と上昇の結果であった。 ・児童生徒が受診しやすいよう、集団健診・個別医療機関での健診実施を継続することに加え、小学校5年時の健診結果説明会や案内通知において、中学2年時に再度受診(継続受診)する必要性について理解してもらうよう結果説明を継続実施していく必要がある。	・健診受診率向上のために、個別医療機関実施を早期に予約できるように通知の時期を早期に検討していくことや、校長会や養護教諭の情報共有会に周知していく。 ・個別健診については、契約事務を早期に着手し、児童生徒が受診しやすい期間を確保し、受診率向上に繋げる。 ・生活習慣病予防健診集団健診日は保護者同伴のため、生活習慣病予防健診会場を活用した生活の振り返りができるような情報の発信を考えていく。 ・健診結果説明会にて、個人の健診結果と食生活を振り返りことで、子どもを通して家族全体の健康づくりに役立てられるようねらいを定めた情報発信をしていきたい。 ・継続受診の重要性や目的等を案内通知へ記載する等、児童生徒及び保護者への説明方法を工夫する。
今後の取り組み方針		
・生活習慣病予防健診結果と生活習慣とのつながりを本人および保護者がイメージできるよう最新知見を取り入れ、当事者の生活実態に合わせた情報が発信できるよう、健診当日のポピュレーションアプローチのパネル展示や健診結果説明会の継続実施。また家庭においても振り返り、実施出来るよう配布資料を継続し検討していく。そのためにも受診率向上にむけ個別医療機関、集団健診を継続実施していく。 ・個別医療機関における個別健診及び集団健診について、受診しやすい時期の設定や健診日の設定を行うため、関係機関等と引き続き調整を行う。 ・学童期生活習慣病予防健診の全体の事業評価を実施し、効果的な成長過程における生活習慣病予防事業の内容を検討していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
南風原町 2,862千円 委託料 2,754千円 一般社団法人 日本健康倶楽部沖縄支部 1,963千円 医療法人信和会 沖縄第一病院 医療法人ネブロス吉クリニック 医療法人わらべ会 わんぱくクリニック 791千円 学童期における生活習慣病予防健診 集団健診 役務費 180千円 通信運搬費 108千円 学童生活習慣病健診に関する通														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>2,862</td><td>2,862</td><td>2,289</td><td>573</td><td>0</td></tr> </table>		総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	2,862	2,862	2,289	573	0			
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
2,862	2,862	2,289	573	0										
資金の流 れ、点 検、費 目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○地方自治法施行令に基づく随意契約により実施しており、妥当である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○事業内容に基づく事業執行を行い、支出先の選定についても妥当であったことから、予算規模は、適正であったと考える。											
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、使途について精算段階で検査を実施しており、目的に則し、必要なものであったと判断した。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	南風原町									
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】										
事業番号・事業名	8-①		国際交流拠点ネットワーク推進事業				新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所		第4章－4－(2)－ウ	
担当部署名	総務部 企画財政課 経済建設部 産業振興課			事業実施 (予定)年度	平成27～令和6年度		沖縄振興基本方針 該当箇所		多元的な交流の推進	
事業内容	観光・経済・文化等の様々な多元的交流を行い、世界のウチナーネットワークの継承・発展及び交流ネットワークを生かす国際交流拠点の形成を図る。									
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)									
実施方法	■直接実施 ■委託 ■補助 □負担 □その他()									
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算 の 状 況		R6年度							
			(a)当初予算額	30,158						
			(b)予算現額	15,188						
			(c)増減額(b-a)	-14,970	0	0	0	0		
			(d)繰越額	0						
	A. 計(b+d)		15,188	0	0	0	0			
	B. 執行済額		13,631							
	うち交付金充当額		10,904							
	次年度繰越額		0							
	執行率(%) (B/A)		89.7%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!			
予算の状況の説明		本町と友好都市締結をしているカナダレスブリッジ市において、式典を開催し、町内の伝統芸能披露や町産品をPR、県系移民との交流など、文化交流、産業振興につなげるとともに交流ネットワークを生かす国際交流拠点の形成に取り組んだ。記念式典を行う現地施設使用料等が当初見込額よりかからなかったため予算を減額した。不用額1,557千円は出たものの計画通りの事業が実施できた。								
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)			達成状況						
				R6年度						
	・友好都市締結20周年記念式典(伝統芸能披露・町物産PR)の開催			目 標	(記念式典の開催)	()	()	()		
				実 績	記念式典の開催					
達成状況説明	現地で記念式典を行い、式典に参加した現地関係者69人(レスブリッジ市、外務省在カルガリー総領事、レスブリッジ沖縄県人会等)に対し、伝統芸能披露や町の物産紹介ブースを設けPRを行った。(町参加者を含め式典参加総数90人)									
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)			基準値 (年度)	R6年度				目標値 (年度)	
	・式典開催後、南風原町及び沖縄に興味があった:80%以上			目 標	()	(80%以上)	()	()	()	
				実 績		88%				
	・南風原町及び沖縄の文化や特産品に以前より関心を持つようになった:80%以上			目 標	()	(80%以上)	()	()	()	
				実 績		83%				
	・カナダ及びレスブリッジ市に以前より興味、関心を持つようになった。80%以上			目 標	()	(80%以上)	()	()	()	
				実 績		100%				
	・国際交流に興味、関心を持つようになった。80%以上			目 標	()	(80%以上)	()	()	()	
				実 績		92%				
	進捗状況説明	式典でレスブリッジ市との交流のあゆみや、伝統芸能披露・町物産品の紹介を行うことで、南風原町及び沖縄に興味を持ったと回答の方が80%を超える結果となった。また、活動についてパネル展及び広報等で町民に周知し、これまで以上に国際交流に興味関心を持つきっかけとなった。この結果を一時的なものにしないよう、継続して交流活動を行い引き続き関心を持ってもらえるよう取り組む。								

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	アンケート結果が目標値を超えることができた。 特産品のPRブースを設け、町の物産品の試食等を行い多くの方に興味や興味を持ってもらうきっかけを作ることができた。 町産品の試食やアンケート等で興味関心を持つ商品を生産者や事業者と接することができた。 町から参加者及び町民についてもこれまでの交流のあゆみ等を知るきっかけとなり、これまで以上に興味・関心を持ってもらうことができた。	今後も県人会と情報交換を行いながら、継続的に交流活動が行えるよう取り組むことで、レスブリッジ市との関係がより良いものになるよう努める。 町の物産品を知るきっかけづくりはできたが、インバウンド需要に備えて販売ルートの確保や新たな販売経路の確保につなげるよう取り組む。
今後の取り組み方針		
南風原町はカナダレスブリッジ市と友好都市を締結しているため、レスブリッジ市や県人会などと情報交換を行いながら、三者間で交流を行い町の産業振興、文化交流に繋げるとともに、観光客及び販路拡大を図っていけるよう取り組む。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)			
南風原町 13,631千円	報償費	現地案内謝礼金 71千円	(現地案内・調整、現地通訳 2団体)
		伝統芸能等謝礼金 240千	(・町文化協会 8人分)
		緋の女王謝礼金 120千円	(・緋の女王 2人分)
	旅費	特別旅費 2,617千円	(・町職員 4人分)
	需要費	消耗品費 29千円	(記念式典展示用パネル 等)
	役務費	通信運搬費 349千円	(記念式典展資料郵送費 等)
		手数料 25千円	(琉球緋クリーニング手数料 等)
	委託料	南風原町商工会 1,168千	(町特産品PR委託)
		(有)国際旅行社南部観光センター 1,251千円	(商工会職員 2人派遣分)
	使用料	施設使用料 59千円	(現地記念式典の会場使用代)
		賃借料 27千円	(緋の女王着付け備品賃借)
	補助金	記念事業派遣補助金	(沖縄カナダ協会長 1人、町商工会長 1人 町文化協会 8人、緋の女王 2人)
(ほか、交付対象外経費 310千円)			
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法は、派遣費補助の取扱い基準に基づき執行しており、各契約については地方自治法施行令に基づく随意契約及び指名競争入札により実施しており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、本事業の遂行に限られた経費となっており、適正であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○食費等については自己負担であり、妥当であったと考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費用・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について確認し、適正であった。